

清華簡『邦家之政』譯注

小寺 敦

關係論著と略記一覽

〔『邦家之政』專論〕

圖版：「《邦家之政》圖版」（清華大學出土文獻研究與保護中心編 李學勤主編

『清華大學藏戰國竹簡』（捌）、中西書局、上海、2018年11月）

整理者：李均明負責「《邦家之政》釋文・注釋」（清華大學出土文獻研究與保護

中心編 李學勤主編『清華大學藏戰國竹簡』（捌）、中西書局、上海、

2018年11月）

程浩 2018：「清華簡第八輯整理報告拾遺」（清華大學出土文獻研究與保護中心、2018年11月17日）

陳民鎮 2018：「清華簡（捌）讀札」（清華大學出土文獻研究與保護中心、2018年11月17日）

石小力 2018：「清華簡第八輯字詞補釋」（清華大學出土文獻研究與保護中心、2018年11月17日）

ee2018：「清華八《邦家之政》初讀」（簡帛網 簡帛論壇、2018年11月17日）

抱小 2018：「讀清華簡捌《邦家之政》小札二則」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心 學者文庫、2018年11月19日）

蕭旭 2018：「清華簡（八）《邦家之政》校補」（復旦大學出土文獻與古文字研究

東洋文化研究所紀要 第 181 冊

中心 學者文庫、2018 年 11 月 21 日)

林少平 2018：「讀清華簡八札記」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心 學者文庫、2018 年 11 月 22 日)

華東師大 2018：華東師範大學中文系出土文獻研究工作室「清華八札記（一）」（簡帛網 簡帛論壇、2018 年 11 月 22 日)

王寧 2018：「清華簡八《邦家之政》讀札」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心 學者文庫、2018 年 11 月 29 日)

李均明 2018：「清華簡《邦家之政》的爲政觀」（『清華大學學報（哲學社會科學版）』33-6、北京、2018 年 11 月)

子居 2019a：「清華簡八《邦家之政》解析」（中国先秦史、2019 年 2 月 15 日、<https://www.xianqin.tk/2019/02/15/707/>)

蔣陳唯 2019：「清華八《邦家之政》札記兩則」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心 學者文庫、2019 年 3 月 24 日)

復旦讀書會 2019：復旦大學出土文獻與古文字研究中心讀書會「《邦家之政》集釋」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心 學者文庫、2019 年 3 月 24 日)

李均明 2019：「清華簡《邦家之政》的反映的儒墨交融」（『中國哲學史』2019-3、北京、2019 年 5 月)

陳偉 2019：「清華簡《邦家之政》零釋」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心編『出土文獻與古文字研究』第八輯、上海古籍出版社、上海、2019 年 12 月)

張敏 2020：「由《邦家之政》談出土戰國文獻學派問題」（『文物鑑定與鑑賞』2020-1、合肥、2020 年 1 月)

朱君傑 2020a：「從清華簡《邦家之政》看《荀子》中的「俗儒」」（『荊楚學刊』21-1、湖北省荊門、2020 年 2 月)

朱君傑 2020b：「從清華簡《邦家之政》看早期儒家思想的分化與流變——兼論

思孟學派在戰國時期的影響力」（『廣西社會科學』2020-2、南寧、2020年5月）

〔『邦家之政』に關連する研究〕

裘錫圭 1988：「“廩人”別解」（『人文雜誌』1988-1、西安、1988年3月、『裘錫圭學術文集』第三卷、復旦大學出版社、上海、2012年6月）

黃暉 1990：『論衡校釋（附劉盼遂集解）』（中華書局、北京、1990年2月）

陳劍 2007：「金文“𠂔”字考釋」（『甲骨金文考釋論集』、綏裝書局、北京、2007年4月）

王輝 2008：『古文字通假字典』（中華書局、北京、2008年2月）

復旦讀書會 2011：復旦大學出土文獻與古文字研究中心研究生讀書會「清華簡《皇門》研讀札記」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心、2011年1月5日）

趙平安 2013：「宋公圖作𠂔叔子鼎與濫國」（『中華文史論叢』2013-3、中華書局、北京、2013年9月）

徐在國 2013：『上博楚簡文字聲系』（安徽大學出版社、合肥、2013年12月）

大西克也 2015：大西克也「非發掘簡を扱うために」（『出土文獻と秦楚文化』8、東京、2015年3月）

小寺敦 2016a：小寺敦「復旦大學出土文獻與古文字研究中心の學術活動について」（『出土文獻と秦楚文化』9、東京、2016年3月）

蔡一峰 2016：「《清華簡（伍）》字詞零釋四則」（『簡帛研究』2016春夏卷、廣西師範大學出版社、桂林、2016年6月）

小寺敦 2016b：小寺敦「清華簡『繫年』譯注・解題」（『東京大學東洋文化研究所紀要』170、東京、2016年12月）

羅濤 2017：「清華簡伍《湯在啻門》札記」（『漢語史與漢藏語研究』第二輯、南京、2017年12月）

鄔可晶 2018：「試釋清華簡《攝命》的“復”字」（復旦大學出土文獻與古文字研究中心、2018年11月17日）

[金文・簡牘著録類]

集成：中國社會科學院考古研究所編『殷周金文集成』（文物出版社、北京、1984～1994年）

郭店：荊門市博物館編『郭店楚墓竹簡』（文物出版社、北京、1998年5月）

上博楚簡：馬承源編『上海博物館藏戰國楚竹書』（一）～（九）（上海古籍出版社、上海、2001年11月～2012年12月）

睡虎地秦簡：睡虎地秦墓竹簡整理小組編『睡虎地秦墓竹簡』（文物出版社、北京、1990年9月）

清華簡：清華大學出土文獻研究與保護中心編『清華大學藏戰國竹簡』（壹）～（拾）（中西書局、上海、2010年12月～2020年11月）

[『邦家之政』研究に關連するインターネット上の主要サイト]

※簡帛網……<http://www.bsm.org.cn/>

復旦大學出土文獻與古文字研究中心……<http://www.gwz.fudan.edu.cn/>

清華大學出土文獻研究與保護中心……<http://www.ctwx.tsinghua.edu.cn/>

中国先秦史……<https://www.xianqin.tk/>

[全體に關する注]

- (1) インターネット上の掲示板の書き込みや學位論文は、取捨選擇した上で必要最小限の引用にとどめた。また、學會報告など、出典にあたることができず、止むを得ず孫引きの形になったものがある。他方、正式な科學的發掘を経ないで發見された「非發掘簡」の辨偽については、大西克也 2015 が簡にして要を得た解説を行っている。清華簡の眞偽については、

小寺敦 2016a: 54-55 における復旦大學出土文獻與古文字研究中心の認識と基本的に同一である。これら出土文獻を研究するにあたっての問題については、小寺敦 2016b: 399-400 も参照されたい。なお趙曉斌「荊州棗紙簡《吳王夫差起師伐越》與清華簡《越公其事》」（清華戰國楚簡國際學術研討會、北京、2021 年 11 月 19 日）において發掘簡である棗紙簡『吳王夫差起師伐越』の釋文が公表され、清華簡『越公其事』の内容と重なる部分が多く、互いに別の版本であることが明らかにされた。これにより清華簡『越公其事』が現代の偽造品ではなく、清華簡も同様に先秦時代の出土文物であることが最終的に實證された。棗紙簡の正式な發掘報告については、「湖北荊州棗林鋪戰國楚墓」（國家文物局主編『2020 中國考古重要發現』、文物出版社、北京、2021 年 5 月）72-75 頁参照。

- (2) 本稿における簡文の句讀點は、釋文を中國式、訓讀文・現代語譯を日本式にした。中國語と日本語の句讀點に關する相違のため、兩者で一致しない部分がある。
- (3) 先行研究の一部、特に揭示板の書き込みでの資料引用には嚴密さを缺くものが見られる。本稿ではそれらをなるべく訂正するようにしたが、特に必要ない限り一々注記していない。

[清華簡『邦家之政』譯注]

[釋文]

[……。孔_二（孔子）曰：「……。邦_一 𡈼（家） 𡈼（將）（以上、第 1・2 號簡）興，元（其）君□□□□，元（其）宮室少（小） 𡈼（卑）以 𡈼（迫）
【1】，元（其）器少（小）而 𡈼（粹）**【2】**，元（其）豐（禮）肥**【3】** □□□□
 □□□□（※缺字のどこかに〔、元（其）樂〕が入る）（以上、第 3 號簡）元（其）未（味）不 𡈼（齊）**【4】**，元（其）政 𡈼（平）而不 𡈼（苛）**【5】**，元（其）立（位）受（授）能而不 𡈼（外）**【6】**，元（其）分也均而不 𡈼（貪）

【7】，元（其）型（刑）墜（易）【8】，邦寡（寡）寡（禁）【9】，元（其）（以上、第4號簡）[民]志倅（遂）而植（直）【10】，元（其）君子變（文）而請（情）【11】，元（其）喪（喪）專（薄）而慙（哀）【12】，元（其）祟（鬼）神寡（寡），元（其）祭時而戢（敬）【13】，元（其）君執棟（重）【14】，父兄（以上、第5號簡）與於絛（終）要【15】，弟子敷（搏）遠人【16】，不內（納）誨（謀）。夫【17】女（如）是，則見（視）元（其）民必女（如）腸矣【18】，下瞻（瞻）元（其）上女（如）父母，上下（以上、第6號簡）相敷（復）也【19】，女（如）是者互（恆）興。

邦家（家）灋（將）毀，元（其）君聖（聽）詒（讒）而棘（速）夏（變）【20】，元（其）宮室愚（坦）大以高【21】，元（其）器大，元（其）變（文）（以上、第7號簡）璋（章）靈（繹）【22】，元（其）豐（禮）菜（采）【23】，元（其）樂蘇（繁）而謏（變）【24】，元（其）未（味）藪（雜）而敷（齊），元（其）祟（鬼）神庶多，元（其）祭彌（濫）以不時以婁（陋）【25】，元（其）（以上、第8號簡）政蠹（苛）而不達，元（其）型（刑）墜（險）而枳（枝）【26】，元（其）立（位）用悉（賁）民【27】，衆謏（脆）女（焉）慙（怙）【28】，元（其）民志慙（憂），元（其）君子專（薄）於敷（教）（以上、第9號簡）而行謏（詐）【29】，弟子敷（搏）遠人而爭駐（窺）於誨（謀）。夫【30】女（如）是，則見（視）元（其）民女（如）蟲（草）蒺（芥）矣【31】，下瞻（瞻）元（其）上女（如）寇（寇）（以上、第10號簡）獸（讎）矣【32】，上下，下，譖（絕）【33】惠（德）。女（如）是，元（其）類（類）不長虐（乎）【34】。」

公曰：「然，邦家（家）之政，可（何）厚可（何）專（薄），可（何）變（減）可（何）璋（彰）而邦家（家）（以上、第11號簡）見（得）長【35】。」孔（孔子）誦（答）曰：「丘（丘）聞（聞）之曰：新則折（制）【36】，老（故）則轉（傳）【37】。始（始）起（起）見（得）曲，惠（直）者虐（皆）曲；始（始）起（起）見（得）植（直），曲者虐（皆）惠（直）【38】。瘠

(前) 人 (以上、第 12 號簡) □□, □□ 元 (其) 則, 無𡗗 (減) 無璋 (彰), 具尻 (處) 元 (其) 𡗗 (郷) 【39】, 𡗗 (改) 人之事 【40】, 𡗗 (當) 時爲常。」
(以上、第 13 號簡)

[訓讀文]

[……。孔_ニ (孔子) 曰く、「……。邦_家 (家) の_將 (將) に興らんとするや、元 (其) の君□□□□□、元 (其) の] 宮室少 (小) 𡗗 (卑) にして以て_迫 (迫) く、元 (其) の器少 (小) にして_粹 (粹) たり、元 (其) の豊 (禮) _{うす} 肥くして [……。元 (其) の樂……。] 元 (其) の未 (味) 𡗗 (齊) しからず、元 (其) の政坪 (平) らかにして_苛 (苛) ならず 【5】、元 (其) の立 (位) 能に受 (授) けて_外 (外) にせず、元 (其) の分や均しくして_食 (食) らず 【7】、元 (其) の型 (刑) _易 (易) く 【8】、邦 は _禁 (禁) _寡 (寡) く、元 (其) の [民] 志_遂 (遂) にして植 (直) 【10】、元 (其) の君子_文 (文) にして請 (情) あり 【11】、元 (其) の _喪 (喪) 専 (薄) くして _哀 (哀) あり 【12】、元 (其) の _鬼 (鬼) 神_寡 (寡) く、元 (其) の祭時ありて_敬 (敬) みあり、元 (其) の君棟 (重) を執り 【14】、父兄_終 (終) 要に與り 【15】、弟子遠人を_{あつ} (搏) めて 【16】、_謀 (謀) を内 (納) れず。夫れ 【17】 是の女 (如) くんば、則ち元 (其) の民を_視 (視) れば必ず腸の女 (如) く 【18】、下元 (其) の上を_瞻 (瞻) ること父母の女 (如) く、上下相ひ_復 (復) し也 【19】、是の女 (如) き者互 (恆) に興る。

邦_家 (家) _將 (將) に_{やぶ} 毀れんとするや、元 (其) の君_讒 (讒) を聖 (聽) きて_{しばしば} 棘 (速) _變 (變) じ 【20】、元 (其) の宮室_坦 (坦) 大にして以て高く 【21】、元 (其) の器大、元 (其) の_文 (文) 璋 (章) _綳 (綳) く、元 (其) の豊 (禮) 菜 (采) あり 【23】、元 (其) の樂 _繁 (繁) にして _變 (變) あり 【24】、元 (其) の未 (味) _雜 (雜) にして _齊 (齊) せられ、元 (其) の _鬼 (鬼) 神_多 多く、元 (其) の祭_彌 (彌) れて以て時あらずして以て_陋 (陋) し

く【25】、元（其）の政_こ（苛）にして達せず、元（其）の型（刑）_こ（險）にして枳（枝）_そ（枝）なひ、元（其）の立（位）は悉（督）民を用ひ【27】、衆_{とわ}（脆）ければ_{おそ}（焉）ち_{おそ}（愍）れ【28】、元（其）の民志_{おそ}（憂）ひあり、元（其）の君子_{あつ}（教）に専（薄）くして_{あつ}（詐）を行ひ、弟子遠人を_{あつ}（搏）めて_{あつ}（謀）に_{あつ}（窺）を争ふ。夫れ【30】是の女（如）くんば、則ち元（其）の民を_{あつ}（視）ること_{あつ}（草）_{あつ}（芥）の女（如）く【31】、下元（其）の上を_{あつ}（瞻）ること_{あつ}（寇）_{あつ}（讎）の女（如）く【32】、上下_{あつ}（下）_{あつ}（德）を_{あつ}（絶）つ。是の女（如）くんば、元（其）の類（類）長からざらんか。」と。

公曰く、「然り、邦_{あつ}（家）の政、可（何）か厚く可（何）か専（薄）く、可（何）か_{あつ}（減）可（何）か_{あつ}（彰）にして而して邦_{あつ}（家）長きを_{あつ}（得）んか【35】。」と。孔_{あつ}（子）_{あつ}（答）へて曰く、「_{あつ}（丘）之を_{あつ}（聞）きて曰く、『新しければ則ち折（制）せられ、_{あつ}（故）ければ則ち_{あつ}（轉）_{あつ}（傳）けらる【37】。』_{あつ}（始）め_{あつ}（起）こりて曲を_{あつ}（得）るは、_{あつ}（直）き者_{あつ}（皆）曲がればなり。_{あつ}（始）め_{あつ}（起）こりて植（直）を_{あつ}（得）るは、曲がれる者_{あつ}（皆）_{あつ}（直）なればなり【38】。』と。_{あつ}（前）人□□、□元（其）の則に□、_{あつ}（減）無く_{あつ}（彰）無く、具に元（其）の_{あつ}（郷）に_{あつ}（處）りて、人を_{あつ}（改）むるの事は、時に_{あつ}（當）たるを常と爲す。」と。

[現代語譯]

[……。孔子（？）が言った。「……。興起しようとする國家は、その君主は……。、その」宮殿は小さくて狭く、器は小さくて混じりけがなく、禮は薄く……。、音樂は……。、味は調っておらず、政治は公平で苛烈でなく、位は能力ある者に授けられて外部の者を疎んじることなく、配分は均等で欲張ることなく、刑罰は穏やかで、國の禁令は少なく、民の志は前向きで素直であり、統治者は上品で誠実であり、葬儀は軽く悲しみがあり、鬼神は少なく、祭祀は時宜

にかなっていて慎しみがあり、君主は權力を掌握し、父兄は要の役割を果たし、子弟は遠方の人を集めるが謀略は受け入れません。そのようであれば、民を自分のほらわたのように見、下の者は上の者を父母のように見、上下は互いに報いあいます。このような者は常に興起します。

滅びようとする國家は、その君主は讒言を聞いてしばしば（行動を）變え、宮殿は廣大で高く、器は大きく、制度は繁多で、禮は華やか、音樂は盛大で奇怪であり、味は亂雜に調えられ、鬼神は多く、祭祀は亂れていて時宜にかなわず下品で、政事は苛烈で一貫せず、刑罰はよこしまで毀傷し、（高い）位は愚民が登用され、民衆は懦弱であるために恐懼し、民の志は憂いがあり、統治者は教化が輕薄でいつわりを行い、子弟は遠方の人を集めて謀略を争うかがいます。そのようであれば、民を雜草や廢物のように見、下の者は上の者を仇敵のように見、上下は行動の規範がなくなります。そのようであれば、この一族は長續きしないであります。」と。

公が言った。「その通りである。國家の政治において、何が厚く何が薄く、何が減して何が彰われ、それでいて國家を長久たらしめ得るのか。」と。孔子は答えて言った。「わたくし丘は、「新たしければ制御され、舊ければ依據される。最初にできた時に曲がっているのは、まっすぐなものは全て曲がっているからである。最初にできた時にまっすぐであるのは、曲がっているものは全てまっすぐであるからである。」と聞いております。昔の人は……その法則に……、消えることも輝くこともなく、全てその（いるべき）ところにあって、人事異動については、その時に合わせるのを常法とするのです。」と。

[注]

【1】簡 1・2 について。整理者は簡背に記された數字が「三」から「十三」までであり、簡 1・2 が缺落していることを指摘する。

筆者注：簡 11-13 は、なにがしかの「公」と孔子との問答になっている。

「公」は前段の文章を承けて質問しているから、それらの文章も地の文ではなく、會話文であると考えた方がよい。會話の主は恐らく孔子であろう。簡1・2のどこかから孔子の會話文が始まっていると想定される。

簡3冒頭の缺字について。整理者は10字の缺字とする。

ee2018 第45樓の王寧は「邦家將興，元君□□」を補う。

王寧 2018 は簡7「如是者恒興」「邦家將毀，其君聽佞而速變」により「邦家將興，元君□□」を補う。

筆者注：竹簡背面の數字は「三」と書かれており、簡1・2は現存しない。圖版を見る限りでは、先頭の「宮」字の上部が缺けていることや本篇他簡の文字同士の間隔から推測すると、冒頭の缺字を10字とするには無理があり、9字とすべきである。ee2018 第45樓の王寧・王寧 2018 による簡3冒頭缺字部分「邦家將興，元君」の推測は妥当であるが、對となる簡7は「元君」の後が5字ある。後文に鑑みて、對となる文において字數の一致は必ずしも求められるものではないが、この文は簡2から續いて「元君」の後に5字ある可能性を考えてもよい。ここの缺字数はひとまずそのようにしておく。また簡7「元宮室愚大以高」とあることから、簡3冒頭の缺字の最後は「元」を補うべきであろう。そうすると補足した「邦蒙廩」は簡2末尾にくる。

「卑」について。整理者は「卑」に讀んで低い意とし、『左傳』襄公三十一年「僑聞文公之爲盟主也，宮室卑庫，無觀臺榭，以崇大諸侯之館」を引用する。

ee2018 第18樓の林少平は「庫」に隸定して小さい意とし、『左傳』襄公三十一年「宮室卑庫」を引用する。

蕭旭 2018 は整理者に従い、「庫」は家屋が小さいことをいう專字とし、『說文解字』「庫，中伏舍，……。一曰屋庫」を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、「小卑以迫」「坦大以高」は宮室の描寫と

する。

「𩇛」について。整理者は「迫」に読んで狭い意とし、『廣雅』釋詁「陋也」、王念孫『廣雅疏證』「狹與陋通。」を引用する。

子居 2019a は「薄」に読んで儉約の意とし、『玉篇』衣部「褊，……，媮也，約也，儉也，……，今爲薄。」を引用する。

復旦讀書會 2019 は「迫」「薄」の音に近いとして整理者に従う。

【2】「𩇛」について。整理者は豕を聲符として心母物部の「粹」に読み、純粹の意として、『呂氏春秋』孟夏紀用衆「天下無粹白之狐」、高誘注「純也。」『廣雅』釋言「粹，純也。」を引用する。

ee2018 第 13 樓の哇那是上博楚簡『周易』簡 30・31 の「𩇛（逖）」により、右旁を「豚」の省略として「純」に読み、「其器小而純」で器が小さくて非常に厚い意とする。

蕭旭 2018 は「橢」に読んで器物の狭小である意とし、「橜」「隋」にも作り、「隨」「橢」「墮」に假借するとし、『爾雅』釋魚「𩇛，小而橢。」郭璞注「橢謂狹而長。」『廣韻』「橢，器之狹長。」を引用する。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ、「脆」に訓じ、『老子』第七十六章「萬物草木之生也柔脆，其死枯槁。」の「脆」を馬王堆帛書『老子』乙本が「粹」に作ることをいう。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、徐在國 2013: 1805・陳劍 2007: 243-272 を参照しつつ、上部が「豕」に見える上博楚簡『周易』簡 30「豚（逖）」は「豚」の繁體であるが、これは簡 5 の「豕」を旁とする字と形が同じであり、「豕」とは無関係とする。

ee2018 第 59 樓の汗天山は「劣」「羸」に読む可能性をいう。

筆者注：『説文解字』「粹，不雜也。」段玉裁『説文解字注』「粹，不襍也。」注「粹本是精米之稱，引伸爲凡純美之稱。」とある。恐らくここは器が混じり

けがなく、質素であることをいうのであろう。ひとまず整理者に従っておく。

【3】「肥」について。整理者は滂母微部の「菲」に読んで慎ましい意とし、『史記』三王世家「母俚德」、集解引徐廣「俚，一作菲。」索隱引孔文祥「菲，薄也。』『論語』八佾「林放問禮之本。子曰：『大哉問。禮，與其奢也，寧儉。……』」を引用する。

陳民鎮 2018 は如字に読んで「薄」に訓じ、『列子』黃帝「口所偏肥，晉國黜之。」張湛注「肥，薄也。』『集韻』旨韻「肥，薄也。……，通作鄙。」を引用する。また直接「鄙」に読んで質樸の意ともする。

王寧 2018 は「配」に読んで「當」「合」に訓じて合致・適切な意とし、『禮記』禮器「禮也者，猶體也。體不備，君子謂之不成人。設之不當，猶不備也。禮有大有小，有顯有微。大者不可損，小者不可益，顯者不可揜，微者不可大也。故經禮三百，曲禮三千，其致一也。」を引用し、禮には「當」が必要であるという。そして出土文獻の「肥」は主に「配」に用いられるとし、『玉篇』西部「配，……，匹也、嬾也、對也、當也、合也。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従う。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、「肥」を音の近くない「薄」に訓ずる根拠として、「龐」から「鄙」の假借、「𦵏」の誤りとするものがあり、後者が比較的よいと述べる。そして出土文獻で「配」に読む字は配する意の「匹」に訓ずることを指摘する。

筆者注：ここは禮についてプラスの方向でものをいうところである。ここは「薄」に訓じてよかろうが、陳民鎮 2018の方が整理者より通假關係が迂遠でなく適當。

【4】簡3末尾の缺字について。整理者は8字の缺字とする。

王寧 2018 は、缺字部分が簡7-8「其文章繹」「其樂繁而辯」の反對の意味になるとする。

筆者注：ここは簡7「亓豊菜，亓樂𦵏而護」により、缺字部分のどこかに

「汧樂」が入るものと考えられる。

「𩇛」について。整理者は「齊」に読んで調和の意とし、『禮記』少儀「凡羞有涪（各本「涪」に作るが阮元は「涪」に改める）者，不以齊。」、鄭注「齊，和也。」『墨子』節用中「不極五味之調，芬香之和，不致遠國珍怪異物。」を引用する。

ee2018 第4樓の海天遊蹤は整理者の解釋を否定し、完備の意とする。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ、「疾」に訓じ、『爾雅』釋詁「齊，疾也。」『國語』楚語下「吾聞國家將敗，必用奸人，而嗜其疾味，其子之謂乎。」を引用し、簡7-8「其君聖聽佞……其味雜而齊」に對應するという。

復旦讀書會 2019 は文脈により海天遊蹤に従う。

筆者注：整理者・海天遊蹤いずれの解釋でも大差ない。現代日本語にすればいずれも「ととのう」と訓ずることができよう。『禮記』仲尼燕居「子曰：「明乎郊社之義、嘗禘之禮，治國其如指諸掌而已乎。是故以之居處有禮，故長幼辨也。以之閨門之內有禮，故三族和也。以之朝廷有禮，故官爵序也。以之田獵有禮，故戎事閑也。以之軍旅有禮，故武功成也。是故宮室得其度，量鼎得其象，味得其時，樂得其節，車得其式，鬼神得其饗，喪紀得其哀，辨說得其黨，官得其體，政事得其施，加於身而錯於前，凡衆之動得其宜。」」では、「宮室」「味」「樂」といった本篇にも見える要素が秩序立つことの重要性が語られる。『荀子』禮論「故禮者，養也。芻豢稻粱，五味調香，所以養口也；椒蘭芬苾，所以養鼻也；雕琢、刻鏤、黼黻、文章，所以養目也；鐘鼓、管磬、琴瑟、竽笙，所以養耳也；疏房、棖、黼、越席、牀第、几筵，所以養體也。故禮者，養也。」では、禮の基本として「五味」の調和の重要性が、文章や音楽のそれと共に述べられ、本篇にも通ずるところがある。

【5】「政坪」について。整理者は「政平」に読んで政務が穏和である意とし、『左傳』昭公二十年「是以政平而不干，民無爭心。」『孟子』離婁下「君子

平其政。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、「政平」が『管子』『晏子春秋』『荀子』『國語』『吳子』『呂氏春秋』にしか見えないことから、本篇が戦国後期より早い成立である證據とする。

【6】「受能」について。整理者は「授能」に読む。

子居 2019a は整理者に従い、『楚辭』離騷「舉賢而授能兮，循繩墨而不頗。」『莊子』雜篇庚桑楚「且夫尊賢授能，先善與利，自古堯舜以然，而況畏壘之民乎。」『荀子』成相「堯授能，舜遇時，尚賢推德天下治。」を引用し、本篇の成立は戦国後期か末期であるとする。

「𡗗」について。整理者は「外」に読んで疎遠の意とし、『戦国策』趙策二「是以外賓客游談之士，……」、鮑彪注「外，疏之也。」を引用する。

石小力 2018 は整理者に従い、『説文解字』「外，遠也。」『荀子』王霸「千歲而不合，何也。曰：人主不公，人臣不忠也。人主則外賢而偏舉，人臣則爭職而妬賢，是其所所以不合之故也。」楊倞注「外賢，疏賢也。」『文子』自然「老子曰：清虛者，天之明也，無爲者，治之常也。去恩慧，舍聖智，外賢能，廢仁義，減事故，棄佞辯，禁姦僞，則賢不肖者齊於道矣。」を引用する。

ee2018 第46樓の王寧は整理者を否定し、「閑」の省略で、「止」に従う「聞」の省聲として「聞」に読み、『爾雅』釋詁は「代」に読むことをいい、「授能而不聞」は「受能而不代」であって、賢能に授けて位を傳えない意味とする。

子居 2019a は整理者に従い、「授能而不外」は思想的に清華簡『子産』「臣人非所能，不進」『墨子』尚賢上「故古者聖王之爲政，列德而尚賢，雖在農與工肆之人，有能則舉之」に近いとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、楚簡で「閑」はしばしば「𡗗」字に省略され、別に存在する「外」字とは異なることをいう。

ee2018 第 55 樓の汗天山は犯す意の「干」（『説文解字』「干，犯也。」）又は未決の意の「懸」に讀む可能性をいう。

陳偉 2019 は「外」「間」が通假するとして、郭店楚簡『老子甲』簡 23「天地之外」、包山楚簡簡 220「庚辛有外」、『左傳』哀公二十七年「故君臣多間。」杜注「間，隙也。」を引用し、ここを「間」と讀むことは整理者の解釋に矛盾しないことを述べる。

筆者注：楚簡の「閑」「闕」「勿」は「聞」に讀まれる。ここは文脈からいっても「外」に讀むのが適切であり、整理者に従う。

【7】「元分也均而不_意」について。整理者は「其分也均而不_貪」に讀み、『墨子』尚同中「分財不敢不均。』『大戴禮記』子張問入官「政均則民無怨」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、分均説は『墨子』以外では『逸周書』本典解「均分以_禘（筆者注：『説文解字』により「利」を改む）之則民安，利（筆者注：朱右曾『逸周書集訓校釋』單刻本により補ったものとみられる）用以資之則民樂，明德以師之則民讓。』『同』太子晉解「穆穆虞舜，明明赫赫，立義治律，萬物皆作。分均天財，萬物熙熙，非舜而誰（筆者注：丁宗洛『逸周書管箋』により「能」を衍字としたものとみられる）。」に見え、『墨子』のそれは『書』系文獻に遡るとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、「貪」に讀む字は上博楚簡『從政』簡 15「_愔（含）」と同じとする。

【8】「_墾」について。整理者は「易」に讀み、『荀子』富國「則其道易」楊倞注「平易可行。』『大戴禮記』子張問入官「善政行易則民不怨」を引用する。

蕭旭 2018 は整理者の讀みに従いつつ、『荀子』富國の用例は道路の意でここに合わず、簡單の意とし、『管子』禁藏「以有刑至無刑者，其法易而民全。以無刑至有刑者，其刑煩而奸多。』『太平御覽』卷六三五引尚書大傳「孔子曰：『古之刑者省之，今之刑者繁之。其教，古者有禮，然後有刑，是以刑省也。今

也反是，無禮而齊之以刑，是以繁也。』『管子』八觀「是故明君在上位，刑省罰寡」を引用し、「刑易」を「刑省」のこととする。

王寧 2018 は「場」の繁體とし、『詩』小雅信南山「疆場翼翼」の「疆場」を『荀子』富國は「疆易」に作り、尹知章注「易與場同。」とあるとする。そしてこの後に「而」が脱落していると述べる。

子居 2019a は「夷」に読み、『説文解字』大部「夷，平也。』『晏子春秋』内篇雜上・景公問東門無澤年穀而對以冰晏子請罷伐魯「陰水厥，陽冰厚五寸者，寒溫節，節則刑政平，平則上下和，和則年穀熟。』『荀子』致士「山林茂而禽獸歸之，刑政平而百姓歸之」を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、蕭旭 2018 の用例がより適切とする。

陳偉 2019 は整理者の讀みに従いつつ「輕」に訓じ、『國語』晉語七「貴貨而易土」、韋昭注「易，輕也。」を引用する。そして「傷」にも作るといい、睡虎地秦簡『法律答問』簡 93「當論而端弗論，及傷其獄，端令不致，論出之，是謂『縱囚』。」整理小組注〔四〕「傷（音易），《説文》：『輕也。』」（睡虎地秦簡：115）を引用し、「輕刑」の用例として『管子』中匡「遠舉賢人，慈愛百姓，外存亡國，繼絕世，起諸孤，薄稅斂，輕刑罰，此爲國之大禮也。』『韓非子』姦劫弑臣「夫嚴刑重罰者，民之所惡也，而國之所以治也；哀憐百姓、輕刑罰者，民之所喜，而國之所以危也。」掲げる。

筆者注：ここは刑罰が重くないことをいうのは間違いない。ひとまず整理者に従い、この字の右上部の「易」の音義により解しておく。

【9】「𢀛」について。整理者は「𢀛」字とし、「慄」に読んで恐懼の意とし、『荀子』議兵「臣下慄然莫必其命」楊倞注「慄然，悚栗之貌。」を引用する。

石小力 2018 は「禁」に読んで「法禁」に訓じ、『周禮』秋官司寇「乃立秋官司寇，使帥其屬而掌邦禁，以佐王刑邦國。」鄭注「禁，所以防姦者也。』『管子』法法「君有三欲於民，三欲不節，則上位危。三欲者何也。一曰求，二曰禁，三曰令。求必欲得，禁必欲止，令必欲行。求多者其得寡，禁多者其止寡。

令多者其行寡。求而不得則威日損，禁而不止則刑罰侮，令而不行則下凌上。故未有能多求而多得者也，未有能多禁而多止者也，未有能多令而多行者也。」を引用する。

ee2018 第 1 樓の ee も「禁」に読み、「邦寡禁」で『左傳』襄公九年「公無禁利」、『孟子』梁惠王下「澤梁無禁」に相當し、國の禁止が少ないことをいうとする。

蕭旭 2018 は石小力 2018 に従う。

林少平 2018 は「𡗗」「𡗘」字として「𡗙」に読み、『廣韻』「悲恨」を引用する。そして「寡𡗙」を悲しみ恨むことが少ない意とし、『漢書』刑法志「夫決獄不當，使有罪興邪，不辜蒙戮，父子悲恨，朕甚傷之。」を引用する。

王寧 2018 は「𡗘」字として ee の讀みに従いつつ囚人の意とし、『小爾雅』廣言「囚、禁、錄也」（筆者注：『小爾雅』廣言に「囚」字は見えない）を引用する。

子居 2019a は ee に従い、『呂氏春秋』離俗覽適威「故禮煩則不莊，業煩則無功，令苛則不聽，禁多則不行。桀、紂之禁，不可勝數，故民因而身爲戮」を引用する。

復旦讀書會 2019 は楚簡の「𡗘」は「𡗙」と無關係であり、「𡗙」は來母侵部、「禁」は見母侵部で、來母と見母は密接な關係があるといい、石小力 2018 に従う。

ee2018 第 54・60 樓の汗天山は倉廩（『荀子』彊國「官人益秩，庶人益祿。」王先謙『荀子集解』注「秩、祿，皆謂廩食也。」）、もしくは廩食を與える（『管子』問「問死事之寡，其餼廩何如。」房玄齡注「寡，謂其妻。餼廩，言給其餼廩。餼，生食。廩，米粟之屬。」）意味に解する可能性を挙げ、前者の解釋がよりよく、二年寺工壺「稟（廩）人」（集成 9673）は正式な俸祿ではない穀物の支給を受ける身分の低い人の意であり（裘錫圭 1988: 28-29）、簡文は官府における工匠胥吏が少ない意で、それは政府の機構が効率的で民衆の負担が軽い

ことになるとする。

筆者注：一見汗天山のような解釋もあり得るように見えるが、ここは刑罰についていう後の簡 9「元型塾而枳」におおよそ對應する。よって石小力 2018 の讀みがよい。

【10】「像」について。整理者は「遂」に讀み、『呂氏春秋』仲秋紀「百事乃遂」、高誘注「成也。」「墨子」脩身「功成名遂」を引用する。そして「志遂」で志を得る意とする。

ee2018 第 2 樓の畦那は整理者の讀みに従いつつ、この後の「植（直）」と合わせて斷固とした意とする。

蕭旭 2018 は整理者の讀みに従いつつ「順遂」「通達」に訓ずる。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ「徑」「直」に訓ずる。

復旦讀書會 2019 は上部の「八」の左側が「彳」と共用されており、左旁を「彳」として隸定するのがよいとし、蕭旭 2018 に従い、『淮南子』精神訓「無外之外至大也，無内之内至貴也，能知大貴，何往而不遂。」高誘注「遂，通也。」「管子」立政「二曰溝瀆不遂於隘，鄩水不安其藏，國之貧也。」を引用する。

ee2018 第 59 樓の汗天山は「粹」に讀む可能性をいう。

筆者注：隸定はひとまず整理者に據っておく。これを含む文は簡 9「元民志𠄎」に對應しており、『集韻』至韻「遂，達也。」とある。よって蕭旭 2018 のいう訓、もしくは『詩』小雅雨無正「戎成不退，飢成不遂。」毛傳「遂，安也。」にいうような安らかの意でよいかもしれない。

「植」について。整理者は「直」に讀み、『論語』季氏「友直，友諒，友多聞」邢昺疏「謂正直。」「荀子」脩身「是謂是，非謂非曰直。」を引用する。

蕭旭 2018 は如字に讀んで「立」に訓ずる。

子居 2019a は整理者に従い、「遂而直」を「直遂」とし、『穀梁傳』襄公十年

「遂，直遂也。」郭店楚簡『五行』「直而遂之，肆也。」馬王堆帛書『五行』「直也而遂之，肆。肆也者，遂直者，直者也。」『爾雅』釋宮「桷直而遂謂之閼。」等を引用する。

筆者注：ここは整理者の読みで文意に適う。

【11】「𡗗」について。整理者は「文」に読み、『論語』公冶長「敏而好學，不恥下問，是以謂之文也。」『荀子』不苟「君子寬而不慢，廉而不劌，辯而不爭，察而不激，寡立而不勝，堅彊而不暴，柔從而不流，恭敬謹慎而容，夫是之謂至文。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従う。

「請」について。整理者は「情」に読んで誠實の意とし、『戰國策』齊策四「是皆率民而出於孝情者也」、鮑彪注「情，猶誠。」を引用する。

ee2018 第 49 樓の陳民鎮は「靖」に読み、恭敬で禮に合する意で後の「文」に對應するとし、『管子』大匡「士處靖，敬老與貴，交不失禮」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、「文」「情」の竝稱について『禮記』表記「文而靜，寬而有辨。」鄭注「靜，或爲情。」を引用する。

筆者注：ここは簡 9-10「亅君子專於𡗗而行𡗗」に對應する。陳民鎮の読みでも意味が通じないことはないが、『荀子』禮論「凡禮，始乎稅，成乎文，終乎悅校。故至備，情文俱盡。」と、「情」「文」の完備された状態が最高の禮との記述があり、整理者の読みがより適切。

【12】「專」について。整理者は「薄」に読んで薄葬の意とし、『荀子』正論「太古薄葬。」『墨子』節葬下「故古聖王制爲葬埋之法曰：棺三寸，足以朽體；衣衾三領，足以覆惡。以及其葬也，下毋及泉，上毋通臭，壟若參耕之畝，則止矣。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、薄葬は墨家の學説であり、墨家の影響を受けてはいるが、「其鬼神寡」とあることから作者は墨家ではないと述べる。

「慙」について。整理者は「哀」に読んで悲哀の意とし、『論語』子張「喪思哀。」『墨子』脩身「喪雖有禮，而哀爲本焉。」を引用する。

【13】「時」について。整理者は時節の意とし、『呂氏春秋』孟夏紀尊師「敬祭之術，時節爲務。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、墨家にも祭祀時敬の説が見えるとして、『墨子』尚同中「故古者聖王明天鬼之所欲，而避天鬼之所憎，以求興天下之利，除天下之害。是以率天下之萬民，齊戒沐浴，絜爲酒醴粢盛，以祭祀天鬼。其事鬼神也，酒醴粢盛不敢不蠲潔，犧牲不敢不腍肥，珪璧幣帛不敢不中度量，春秋祭祀不敢失時幾，聽獄不敢不中，分財不敢不均，居處不敢怠慢。」等を引用する。

「戡」について。整理者は「敬」に読んでの意とし、『論語』子張「祭思敬。」を引用する。

【14】「執」について。整理者は『大戴禮記』四代「執國之節」、王聘珍注「執，持也。」を引用する。

復旦讀書會 2019 は構成要素の「𠂔」を「又」に作ることをいう。

「棟」について。整理者は棟梁の意とし、『左傳』襄公十一年「子於鄭國，棟也。」を引用する。

ee2018 第23樓の羅小虎は「執棟」の用例が傳世文獻に見えないことから「中」に読み、「執中」について『孟子』離婁下「湯執中，立賢無方。」『史記』五帝本紀「帝嚳溉執中而徧天下」、『書』大禹謨「惟精惟一，允執厥中。」を引用し、「湯執中」が簡文「其君執中」に類似することをいう。

蕭旭 2018 は「重」に読んで權勢の意とする。

王寧 2018 は如字に読み、『說文解字』「棟，極也。」段注「極者，謂屋至高之處。繫辭曰：『上棟下宇。』五架之屋，正中曰棟。釋名曰：『棟，中也，居屋之中。』」を引用し、「棟」に極めて高い・重要な意味があり、「棟」「棟樑」のよ

うに重要人物や君權・君位の意味でも用いられるとし、『列女傳』辯通・齊孤逐女「柱，相國是也。夫柱不正則棟不安，棟不安則榱橑墮則屋幾覆矣。王則棟矣，庶民榱橑也，國家屋也。夫屋堅與不堅，在乎柱；國家安與不安，在乎相。」『後漢書』卷五十四楊震傳「朕之不德，用彰厥咎，山崩棟折，我其危哉。」を引用する。

子居 2019a は「德」に訓じ、『國語』魯語上「吾聞之，不厚其棟，不能任重。重莫如國，棟莫如德。」清華簡『管仲』「執德如縣，執政如繩」を引用する。

復旦讀書會 2019 は「重」に読み、また東・冬部の合併が見られるのは中古後期に下り、後の「𣎵」を含めて「中」「冲」には読めないとする。

筆者注：「棟」は東部端母、「重」は東部定母で通假し得る。蕭旭 2018 に従う。「執重」については、『穀梁傳』文公三年「夏五月，王子虎卒。叔服也。此不卒者也，何以卒之。以其來會葬，我卒之也。或曰，以其嘗執重以守也。」とある。

【15】「與」について。整理者は參與の意とする。

「𣎵」について。整理者は「終」に読んで「成」の意とし、『左傳』昭公十三年「百事不終」、杜注「百事不成。」を引用する。

ee2018 第 22 樓の羅小虎は次のようにいう。『史記』酈生陸賈列傳「夫陳留，天下之冲（筆者注：諸本「衝」に作り、「冲」は「衝」の簡體字），四通五達之郊也」の「冲」字が「中」を聲符とし、傳世文獻で「中南」を「終南」、「中人」を「終人」に作るように「冬」を聲符とする字と通じる。郭店楚簡『五行』簡 12「憂心不能「忡」「忡」」について整理者は「忡」に、清華簡『湯在啻門』簡 9「𣎵」字を整理者は「融」に読むが、「冲」に読むべきである（羅濤 2017: 184-186）。『詩』召南草蟲「憂心忡忡」、毛傳「忡忡，猶衝衝也。」とあるから「終」は「衝」に通ずる。ここは「衝」に読んで重要の意であり、「衝要」で同義連用になり、『後漢紀』靈帝紀下「今涼州，天下之衝要，國家之

蕃衛也。」とある。

蕭旭 2018 は「中」に讀む。

ee2018 第 61 樓の my9082 は整理者の讀みに従って「永」「久」に訓じ、「終要」で終了・最後の意とする。

筆者注：「元君執棟」に續く句であるから、父兄も然るべき役割を擔う類のことをいうのであろう。羅小虎のいうように「終」「衡」は意味が通じ得るから、「衡」に訓じて解しておく。

「要」について。整理者はキーポイントの意とし、『韓非子』揚推「聖人執要，四方來效。」『墨子』所染「此六君者，非不重其國愛其身也，以不知要故也。」、高誘注「不知所行之要約也。」を引用する。

蕭旭 2018 は「腰」の古字とし、「中腰」で政權の重要部門の比喻とする。

王寧 2018 は、『易』繫辭下「易之爲書也，原始要終，以爲質也。」について孔疏は「要終」を「要會其事之終末」とし（集解引崔觀説も同じ）、「要」「會」の意味は近いと述べ、『周禮』天官冢宰・小宰「聽出入以要會」、鄭注「鄭司農云：……謂計最之簿書，月計曰要，歲計曰會，……」を引用し、「終要」は最終的な合計・計畫で、ここは大事を謀劃する意とする。

子居 2019a は「校正」「糾正」に訓じ、『淮南子』墜形訓「紀之以四時，要之以太歲。」高誘注「要，正也。」を引用し、『左傳』襄公十四年「自王以下各有父兄子弟以補察其政。」の「補察其政」が「與於終要」に對應するという。

ee2018 第 61 樓の my9082 は久しい意とし、『論語』憲問「久要不忘平生之言」を引用する。

【16】「敷」について。整理者は「轉」に讀み、『管子』法法「引而使之，民不敢轉其力。」、尹知章注「轉，猶避也。」を引用する。

ee2018 第 1 樓の ee は「專」に讀み、自分のほしいままにする意とする。

ee2018 第 3 樓の哇那は「斷」「轉」に讀んで捨て去る意とする。

ee2018 第 17 樓の王寧は直接「專」字に解し、任用の意とする。

ee2018 第 20 樓の羅小虎は ee に従う。

蕭旭 2018 は「搏」「團」に読み、「團聚」で交際の意とする。

子居 2019a は ee に従い、『大戴禮記』子張問入官「有善勿專，教不能勿摺」盧辯注「專，爲自納於己。」を引用する。

蔣陳唯 2019 は蕭旭 2018 の讀みに従いつつ、『商君書』農戰「凡治國者，患民之散而不可搏也，是以聖人作壹搏之也。」を引用し、王念孫『讀書雜誌』漢書第八轉胡衆條に「燕王北定代、雲中，轉胡衆，入蕭關。轉字，師古無音。念孫案：轉讀爲專，專謂統領之也。史記作搏，索隱曰：『搏音專，專謂統領胡兵。』又田完世家「搏三國之兵」，徐廣曰：『搏音專，猶并合制領之謂也。』下文云『王專并將其兵』，義與此同。專、搏、轉聲相近，故專又通作轉。」とあり、「搏」は指導者に集めるの意であり、王寧の解釋の方がよいという。

復旦讀書會 2019 は馬王堆帛書『九主』33/384 にも見え、右旁が「𠂔」である字（同 32/383、41/392）の異體字であり、「攴」に従う字は「手」に従う字と通じ（王輝 2008: 737）、『左傳』昭公二十年「若琴瑟之專壹，誰能聽之。」の「專」について釋文「董遇本作搏。」とあり、蔣陳唯 2019 に従って「搏」に読み、集めるの意とする。

ee2018 第 56 樓の汗天山は文脈から哇那の「斷」説に従う。

陳偉 2019 は蕭旭 2018 に従う。

筆者注：ここは簡 10「弟子𠂔遠人而爭𠂔於謀夫」に對應する。「弟子𠂔遠人」はいずれにも見えるため、「遠人」の使い方で明暗が分かれるということか。よって蔣陳唯 2019 に従い、「搏」に讀んで「あつめる」の意に解しておく。

「遠人」について。整理者は關係が疎遠な人の意とし、『左傳』定公元年「周輦簡公棄其子弟而好用遠人。」を引用する。

ee2018 第 20 樓の羅小虎は「遠人」「謀夫」が對應するとして、『史記』范雎

蔡澤列傳が秦昭王が謁者王稽に魏に使いさせ、王稽が魏人の鄭安平に問うて「魏有賢人可與俱西游者乎。」と言ひ、後に范雎を推薦して彼らが秦國に來た時、穰侯が王稽に問うて「謁君得無與諸侯客子俱來乎。無益，徒亂人國耳。」と言つたことを引き、「遠人」は甚だしくは他國から來た策士謀臣の類で、國内の子弟と結託して擅斷し、統治に不利益なこともあったことを述べる。

蕭旭 2018 は國外の諸侯の意で、ここは子弟が國外の諸侯と交際してその勢力を借りることをいうとし、『晏子春秋』内篇問上「景公問晏子曰：『忠臣之行何如。』對曰：『……君在不事太子，國危不交諸侯』……景公問：『佞人之事君如何。』晏子對曰：『……外交以自揚，背親以自厚。』」『史記』楚世家「無忌又日夜讒太子建於王曰：『……且太子居城父，擅兵，外交諸侯，且欲入矣。』」を引用する。

子居 2019a は「專遠人」で、戰國時代に流行した群公子が食客を養う風潮をいうと述べる。

復旦讀書會 2019 は『左傳』襄公九年「我之不德，民將棄我，豈唯鄭。若能休和，遠人將至，何恃於鄭。」『同』昭公七年「兄弟之不睦，於是乎不弔，況遠人，誰敢歸之。」を引用し、先秦時代の「遠人」には外族や遠方の人の意味を含むものの、異族や關係が疎遠である意味を主とし、周人の「尊尊親親」觀念と關係があると述べる。

筆者注：復旦讀書會 2019 もいうように先秦時代における「遠人」は、自己を中心として遠方の諸侯や異族をいう場合があるが、『荀子』君道「人主欲得善射，射遠中微者，縣貴爵重賞以招致之，內不可以阿子弟，外不可以隱遠人，能中是者取之，是豈不必得之之道也哉。雖聖人不能易也。欲得善馭速致遠者，一日而千里，縣貴爵重賞以招致之，內不可以阿子弟，外不可以隱遠人，能致是者取之，是豈不必得之之道也哉。雖聖人不能易也。」にあるように、簡文は遠方から來歸してプレーンになる類を指し、時代的には人のこの種の移動が活發化する、恐らく春秋後期以降の事柄である。

【17】「内」について。整理者は「納」に讀む。

ee2018 第 5 樓の悦園は如字に讀む。

「誨（謀）夫」について。整理者は「謀夫」に讀んで賢でなく事を企てる者の意とし、『詩』小雅小旻「謀夫孔多，是用不集。」鄭箋「謀事者衆而非賢者，是非相奪莫適可從，故所爲不成。」を引用する。

程浩 2018 は簡 10「爭𡗗（窺）於誨（謀）夫」に對應するとし、傳世文獻の「謀夫」は道德的判斷のない單なる謀をする人の意であるといつて「媚夫」に讀み、清華簡『皇門』簡 10-11 の用例では「善夫」の對になっており（『逸周書』皇門「媚夫」について、王念孫『讀書雜誌』逸周書で王引之は「媚夫」を誤ったものとする）、本篇では賢臣に親しみ小人を遠ざける治國の道を宣揚していると述べる。そして戰國時代の「媚」字は本篇の「誨」、清華簡『皇門』簡 10-11 の「忒」、同『邦家處位』・上博楚簡『志書乃言』の「託」等、多くの種類の文字で書かれており、それらの旁は之部、幽部、宵部でいずれも旁轉の関係にあるという。

ee2018 第 5 樓の悦園は「侮，夫……」に讀み、「侮」を内部で互いに侮り欺く意とし、「夫」を「如是」以下の句に繋げる。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、『荀子』王霸「故用國者，義立而王，信立而霸，權謀立而亡。三者，明主之所謹擇也，仁人之所務白也。」清華簡『芮良夫咎』簡 10-11「寇戎方晉，謀猷惟戒，和搏同心，毋有相負」等を引用し、またここを四字句として悦園の句讀を否定する。

陳偉 2019 は、整理者の句讀だと謀夫・弟子・遠人と前の父兄・君子が同一概念に屬さず唐突であるとして、悦園のそれに従う。そして「夫」を語氣助詞として「夫如是」は「如是」と同じといい、『論衡』奇怪「夫如是，闔背之說，竟虛妄也。世間血刃死者多，未必其先祖初爲人者，生時逆也。秦失天下，閻樂斬胡亥，項羽誅子嬰，秦之先祖伯翳，豈逆生乎。如是，爲順逆之說，以驗

三家之祖，誤矣。」の直後の「如是」について黄暉 1990: 160 がその前に「夫」を補うことをいう。また「内侮」を家庭・國家内部の紛争とし、『國語』周語中「襄王十三年，鄭人伐滑。王使游孫伯請滑，鄭人執之。王怒，將以狄伐鄭。富辰諫曰：『不可。古人有言曰：『兄弟讒鬪，侮人百里。』周文公之詩曰：『兄弟鬪于牆，外禦其侮。』若是則鬪乃内侮，而雖鬪不敗親也。……』」等を引用する。

筆者注：「夫」が前後いずれの文に含まれるかについては、ここが四字句である必然性はなく、悦園や陳偉 2019 の議論が適當。但し「𢇛」は「侮」ではなく、整理者のように「謀」に讀んだ方が意味の通りがよい。「𢇛」字の用例は清華簡『四告』簡 8-9「用倉（創）興立𢇛（謀）𢇛（惟）猷」にも見える。復旦讀書會 2019 も引く『荀子』王霸「故用國者，義立而王，信立而霸，權謀立而亡。」のように、權謀により國が減ぶこと、またこの後で權謀を事とする者を好むことが悪しきことであることもいう。「夫如是」については『論語』子路「上好信，則民莫敢不用情。夫如是，則四方之民，襁負其子而至矣，焉用稼。」等、傳世文獻に用例がある。

【18】「腸」について。整理者は「傷」に讀んで傷病の意とし、『左傳』哀公元年「臣聞國之興也，視民如傷，是其福也。」を引用する。

陳民鎮 2018 は整理者の別説として、用字の習慣からいって楚簡の「傷」は「𢇛」（上博楚簡『從政』『姑成家父』『三德』『競公瘡』、清華簡『子產』）「𢇛」（郭店楚簡『太一生水』『語叢四』・上博楚簡『曹沫之陣』・清華簡『說命中』等）のように多く「戈」「リ」に従い、その他、上博楚簡『武王踐祚』は「傷」に、『成王既邦』は「邊」に、清華簡『芮良夫毖』は「傷」に作り、「腸」に讀んで「傷」に作るのは必ずしも用字の習慣に合わないとして、如字に讀むことを紹介する。

子居 2019a は「易」に讀み、字形の近似から「子」に誤ったのではないかといい、『左傳』襄公十四年「良君將賞善而刑淫，養民如子，蓋之如天，容之如地」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は陳民鎮 2018 に従う。

ee2018 第 59 樓の汗天山は整理者に従う。

筆者注：楚簡の用字の習慣から陳民鎮 2018 が適當。『戰國策』秦策二「夫取三晉之腸胃，與出兵而懼其不反也，孰利。」とあり、「胃」と併せて重要な部分を象徴する。ここは如字に読んでおく。

「𠂔𠂔民必女腸矣」について。整理者は「視其民必如傷矣。」に讀む。

陳民鎮 2018 は清華簡『邦家之道』「如是，則視其民必如腸矣，下瞻其上如父母，上下相復也……如是，則視其民如草芥矣，下瞻其上如寇讎矣，上下皆德。」、『大戴禮記』主言「上之親下也如腹心，則下之親上也如保子之見慈母也。上下之相親如此」、『孔子家語』王言解「上之親下也，如手足之於腹心。下之親上也，如幼子之於慈母矣。上下相親如此」を引用し、また『山海經』「女媧之腸」「馬腸」の「腸」を「腹」にも作ることから、「腸」と「腹心」が對應關係にあるとし、「視民如～」とあるのは、「心腹」「手足」といった身體器官を除けば「子」「嬰兒」「父母」のように親族であり、また「禽獸」「讎」「土」のような憎惡の對象であり、『孟子』離婁下「孟子告齊宣王曰：『君之視臣如手足，則臣視君如腹心；君之視臣如犬馬，則臣視君如國人；君之視臣如土芥，則臣視君如寇讎。』」『左傳』哀公元年「臣聞，國之興也，視民如傷，是其福也；其亡也，以民爲土芥，是其禍也。」『孟子』離婁下「孟子曰：『禹惡旨酒，而好善言；湯執中，立賢無方；文王視民如傷，望道而未之見；武王不泄迓，不忘遠；周公思兼三王，以施四事，其有不合者，仰而思之，夜以繼日，幸而得之，坐以待旦。』」に「傷」とあるのは誤りかもしれないと述べる。

子居 2019a は『大戴禮記』保傅「天子無恩於父母，不惠於庶民，無禮於大臣，不中於制獄，無經於百官，不哀於喪，不敬於祭，不信於諸侯，不誠於戎事，不誠於賞罰，不厚於德，不強於行，賜與侈於近臣，鄰愛於疏遠卑賤，不能懲忿窒慾，不從太師之言，凡是之屬太傅之任也。」を引用し、本篇の作者が戰

國後期・末期の封君の傳だったとする。

【19】「𡗗」について。整理者は「復」に読み、『荀子』臣道「以德復君而化之」、楊倞注「復，報也。」を引用する。

蕭旭 2018 は「孚」に読んで「信」に、また「附」に読んで「親附」に訓じ、「上下相附」で上と下が互いに親しむ意で、後の「上下絶德」と對になるという。

子居 2019a は整理者に従う。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

【20】「邦𡗗𡗗毀」について。整理者は「邦家將毀」に読む。

子居 2019a は整理者の讀みに従い、「邦家將成……邦家將毀……」の對比の類は清華簡『管仲』「天下之邦君孰可以爲君。孰不可以爲君。」『子犯子餘』「欲起邦奚以。欲亡邦奚以。」『趙簡子』「齊君失政，陳氏得之，敢問齊君失之奚由。陳氏得之奚由。」のように清華簡によく見え、これらの篇に思想的・構文的に近い関係があることをいう。

「𡗗」について。整理者は「佞」に読み、『爾雅』釋詁「允、任、壬，佞也。」邢昺疏「謂諂佞也。」を引用する。

ee2018 第 4 樓の海天遊蹤は「𡗗」の「𡗗」が省略されており、「譏」の異體字として、「佞」に通じ諂諛の意とする（『集韻』去聲徑韻・王念孫『廣雅疏證』）。

ee2018 第 19 樓の海天遊蹤は自説を訂正し、「𡗗」ではなく下の横畫二本が省略された「𡗗」（古文の「終」字）に従うとして「譏」に読み、『新序』雜事三「昭王又賢，不肯聽譏。」を引用する。そして「邦家將毀，其君聽佞而速變」について、「邦家將毀」であればその君は譏言を聞き入れて異變を招く意味とする。

子居 2019a は整理者に従い、清華簡『管仲』「及幽王之身，好使佞人而不信

貞良。」を引用する。

復旦讀書會 2019 は古文の「終」字とする點を除いて海天遊蹤の修正説に從い、戰國文字では「甞」の「皿」を省く例がないことを指摘する。

筆者注：ここは戰國文字の例からいって、復旦讀書會 2019 もいうように海天遊蹤の修正説「讒」に讀んでおく。「聽讒」については、『戰國策』秦策五「桀聽讒而誅其良將，紂聞讒而殺其忠臣，至身死國亡。今王聽讒，則無忠臣矣。」『呂氏春秋』先識覽「夏王無道，暴虐百姓，窮其父兄，恥其功臣，輕其賢良，棄義聽讒，衆庶咸怨，守法之臣，自歸于商。」とある。

「棘」について。整理者は「束」の繁文として「速」に讀む。

抱小 2018 は「數」に讀んでしばしば改變する意とし、『廣韻』「所角切，……類數」、『管子』侈靡「母數變易，是爲敗成。」『尉繚子』戰威「衆不審則數變，數變則令雖出衆不信矣。」を引用する。

ee2018 第 49 樓の陳民鎮は抱小 2018 に從う。

子居 2019a は整理者に從う。

ee2018 第 59 樓の汗天山は抱小 2018 に從う。

筆者注：「速」について『説文通訓定聲』「(段借) 又爲數。」とあるように、「速」にも「しばしば」の意がある。整理者がどのように訓じているか不明であるが、整理者の讀みのままに從う。

【21】「愚」について。整理者は「坦」に讀んで「寛」の意とし、『莊子』秋水「明乎坦塗。」を引用する。また「繹」にも讀み、「繹」「坦」は通假すること进行う。

程浩 2018 は簡 3「宮室小卑以迫」に對應し、楚文字で「坦」には専用の字があるとして、「墀」に讀んで「場」に訓じ、建築用地の意とする。そして『尚書』金縢「爲三壇同墀」、鄭注「封土曰壇，除地曰墀」（筆者注：『禮記』祭法「設廟祫壇墀而祭之」鄭注）を引用し、本篇の「其宮室墀大以高」は家や國

を破壊する者の宮室はしばしば廣大・高層であることをいうと述べる。

抱小 2018 は『集韻』換韻「憚」と同じく「單」に読んで廣大の意とし、『説文解字』「單，大也。」等を引用し、「大」の意である「闡」「𨔵」にも通じるとする。

ee2018 第8樓の心包は「𨔵」に読み、『廣雅』釋詁「𨔵，大也。」を引用する。

ee2018 第18樓の林少平は「坦」「𨔵」いずれに読んでもよく、廣く大きい意で、前の「小庫」に對應するとし、『字彙補』土部「𨔵，恥善切，音闡，寬也。老子：『𨔵然而善。』」を引用する。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ「厚」に訓じ、『詩』周頌昊天有成命「於緝熙，單厥心。肆其靖之。」毛傳「單，厚。』『國語』周語下「且其語說昊天有成命，頌之盛德也。其詩曰：『昊天有成命，二后受之，成王不敢康。夙夜基命宥密，於，緝熙。亶厥心肆其靖之。』……亶，厚也。」等を引用する。そして本篇では大小・高卑・厚薄が對比されていると述べ、『禮記』月令「塋丘壟之大小、高卑、厚薄之度」を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、「小卑」「愚大」を同義連用とする。

ee2018 第59樓の汗天山は心包らに従う。

筆者注：讀みについて説が分かれるが、ここを「大」の意にとることはほぼ共通する。確かに楚文字に「坦」字はあるが、本篇での假借字の可能性を排除するものではない。ひとまず整理者に従って「坦」に読んでおく。

【22】「璋」について。整理者は「章」に読んで花紋の色の意とし、『墨子』非樂上「是故子墨子之所以非樂者，非以大鍾鳴鼓琴瑟笙之聲以爲不樂也，非以刻鏤華文章之色以爲不美也。』『荀子』禮論「雕琢、刻鏤、黼黻、文章，所以養目也。」を引用する。

「𨔵」について。整理者は「𨔵」に読み、『説文解字』「繁采色也。」を引用す

る。

子居 2019a は「繻」と通假するとして「蠕」に読み、『管子』立政「工事競於刻鏤，女事繁於文章，國之貧也。」を引用して簡文との思想的類似性をいう。

筆者注：ここは整理者に従って文脈上問題ない。

【23】「采」について。整理者は「采」に読み、『漢書』嚴安傳「禮失而采」、顔師古注「采者，文過其實也。」を引用する。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ「飾」に訓じ、清華簡『子産』「子産不大宅域，不營臺寢，不飾美車馬衣裘……乃禁專擅、相冒、躡蹠、飾美宮室衣裘、好飲食醞釀。」を引用し、その奢侈華美を禁ずるところが簡文と思想的に近いことをいう。

【24】「元樂蘇而謏」について。整理者は「其樂繁而變，」に読み、『呂氏春秋』季夏紀音初「世濁則禮煩而樂淫。」を引用する。

ee2018 第 9 樓の心包は「變」が郭店楚簡『語叢一』簡 34-35「樂繁禮咨則訪」の「訪」と関連するかもしれないという。

子居 2019a は『晏子春秋』外篇仲尼見景公景公欲封之晏子以爲不可第一「今孔丘盛聲樂以侈世」を引用し、ここと對應すると述べる。

「謏」について。整理者は「變」に讀む。

王寧 2018 は「辯」の異體字とし、『楚辭』九辯王逸注「辨者，變也，謂敝道德以變說君也。」『廣雅』釋言「辯，變也。」『易』坤卦文言傳「由辯之不早辯也」、釋文「辯，荀作變。」を引用し、「辯」「變」が通用するという。そして『淮南子』原道「而五音之變不可勝聽也」、高誘注「變，更相生也。」を引用し、五音の變化が多くての樂曲を生み、簡文を變化が多い、非常に多い意とする。

ee2018 第 57 樓の汗天山は「緯」「濁」が通ずること（『詩』齊風甫田・曹風候人「婉兮變兮」を『說文解字』は「婉兮蠕兮」に作る）から「亂」に読み、「繁亂」について『文選』卷十八嵇康『琴賦』「霍漫紛葩」、張銑注「紛葩，繁

亂之音。」を引用する。

筆者注：ここは整理者の読みと王寧 2018 の理解で文意に適う。

【25】「弼」について。整理者は竝母物部で滂母物部の「拂」に読み、『荀子』臣道「無撓拂」、楊倞注「拂，違也。」を引用する。

ee2018 第 33・41 樓の苦行僧は通常の「弼」字とは明らかに異なり、左旁は「戈」を省略した「戔」で2つの「弓」ではなく、「𠂔」「戔」の音は近く、右旁の「𠂔」は聲符として「濫」に読む（趙平安 2013: 31-33 参照）。そして蔓延・波及・影響の意とし、『左傳』昭公二十七年「叔孫氏懼禍之濫，而自同於季氏，天之道也。」孔疏「叔孫氏亦懼禍之濫及於己，而自同心於季氏，俱叛公。」を引用し、第 40 樓の哇那説について清華簡『湯在啻門』簡 16 の當該字も「濫」に読むことをいう。

ee2018 第 40 樓の哇那是清華簡『湯在啻門』簡 16 の「費」に読む當該字と同様で、同『子産』簡 8・23 の「𠂔」に釋される字も「弼」の省聲で「費」に読むのではないかという。

王寧 2018 は同じく竝紐物部の「悖」に読む。

子居 2019a は哇那に従い、『逸周書』文傳解「人君之行，不爲驕侈，不爲泰靡，不淫于美，括柱茅茨，爲民愛費」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は、趙平安 2013 の議論は、楚簡においてこの字の左側が「戔」の省聲になる證據としては不足であるとし、ひとまず整理者に従う。

筆者注：清華簡『湯在啻門』簡 16 の「弼」は右旁が「𠂔」であるが、本簡のそれは苦行僧のいうように「𠂔」であり、字形が異なる。ここは清華簡他篇同様「濫」に読んでおく。

2 箇所の「以」について。蕭旭 2018 は前者を介詞、後者を「而」のような接續詞とする。

ee2018 第 33 樓の苦行僧も接續詞とする。

「不時」について。整理者は時節に基づかない意とする。

蕭旭 2018 は「不」は「時以婁」にかかる副詞とする。

ここはここは簡 5「元祭時而𡗗」に對應するから、整理者の解釋でよい。

「婁」について。整理者は「𡗗」に読んで頻繁の意とする。

蕭旭 2018 は「𡗗」に読み、腰を曲げて慎み深い様子をいうとし、睡虎地秦簡『爲吏之道』簡 22 貳「四曰受令不𡗗。」整理者注〔六〕「𡗗，鞠躬，表示恭敬。《左傳・昭公七年》：『一命而𡗗。』」（睡虎地秦簡：169）を引用し、後に「𡗗」「𡗗」に作るようになったことをいう。

ee2018 第 49 樓の陳民鎮は「𡗗」に読んで祭祀が輕慢である意で、前の「時而敬」に對應するとし、『史記』宋微子世家「今殷民乃𡗗淫神祇之祀」、索隱「劉氏云：𡗗淫猶輕穢也。」を引用する。

筆者注：ここは簡 5「敬」の反意語がくるべきである。「婁」と同じ侯部來母の字ということで陳民鎮のように「𡗗」に假借するのも一案であり、ひとまずそれに従っておく。但し、祭儀の格式を保てない意で「𡗗（まづし）」「𡗗」、或いは祭儀に手ぬかりがある意で「漏」もあり得るか。

【26】「𡗗」について。整理者は溪母談部の「欠」に従うとし、匣母談部の「陷」に読み、『韓非子』六反「犯而誅之，是爲民設陷也。」「孟子」梁惠王上「及陷於罪，然後從而刑之，是罔民也。」を引用し、罟を設けて民をそこなう意とする。

石小力 2018 は「恐」に読み、清華簡『繫年』簡 29-30「文王以北啓，……焉取頤以贛陳侯。」についてその整理者は「贛」を「恐」に読み、『爾雅』釋詁下「恐，懼也。」とあることをいう。

ee2018 第 3 樓の哇那は「險」に読み、『管子』霸形「人甚懼死，而刑政險。」を引用し、清華簡『命訓』簡 11「𡗗之以哀」が『逸周書』命訓解「斂之以哀」に對應することをいう（蔡一峰 2016: 31-34）。

ee2018 第16樓の王寧は「嚴」に讀む。

林少平 2018 は「坎」に讀み、古文の「坎」は「檻」と同じで、「檻」「濫」は通假するとし、『莊子』則陽「同檻而浴。」註「一作濫。」(筆者注：恐らく『康熙字典』からの孫引き。諸本「同濫而浴」に、陳汝錡『甘露園短書』卷八は「檻」に作る。)を引用する。そして「刑濫」で刑罰の汎濫を指すとし、『詩』商頌殷武「不僭不濫，不敢怠遑。」毛傳「賞不僭，刑不濫也。」『荀子』致士「賞不欲僭，刑不欲濫，賞僭則利及小人，刑濫則害及君子。」を引用し、「其刑濫」が簡4「其刑易」と呼應するという(同日發表の ee2018 第36樓の林少平は類似の論理で「欲」に讀み、「輓」「坎」「濫」に通ずることをいう)。

王寧 2018 は哇那に従い、「險」「嚴」も通假するという。

子居 2019a は林少平 2018 の議論に據って「輓」「濫」に讀む。

復旦讀書會 2019 は次のようにいう。「陷」を形容詞とする用法は少なく、「賜」の意に用いられる場合の「贛」は冬部に屬し、『繫年』で「恐」に讀むのは正しい。しかし「整而枳」は「刑」を形容しており、ここでは文法上合わない。傳世文獻で「恐」は動詞として用いられることが多く、「刑恐……」の文の場合、その後に賓語がこない例は少ない。「贛」は談部にも屬し、蔡一峰 2016: 31-34 が「險(筆者注：ここは「斂」と書かれている)」に、林少平 2018 が「濫」に讀む説も有力である。

筆者注：清華簡『治政之道』簡40にも「整(陷)之于大難」と整理者が「陷」に讀む同様の字があるが、この議論については復旦讀書會 2019 が順當。「濫」については先に通假字として用いているので、ここは哇那に従って「險」に讀んでおく。

「枳」について。整理者は「枝」に讀み、『說文解字』「木別生條也。」を引用する。

石小力 2018 は「枝」の異體字として「伎」に讀み、『說文解字』「很也。」

『管子』形勢解「能寬裕純厚而不苛枝，則民人附。」を引用する。

ee2018 第 1 樓の ee は整理者に従い、『集韻』眞韻「枝，很戾。」を引用する。

ee2018 第 16 樓の王寧は「歧」にも讀めるという。

林少平 2018 は如字に讀み、『孔叢子』刑論「率過以小罪謂之枳。」を引用する。

王寧 2018 は整理者に従い『易』繫辭下「將叛者其辭慙，中心疑者其辭枝」孔疏「枝，謂樹枝也。中心於事疑惑，則其心不定，其辭分散若閑枝也。」を引用し、紛糾の意味とする。また「歧」「岐」にも作るといい、『爾雅』釋地「中有枳首蛇焉。」、邢昺疏「枳，岐也。」校勘記「枳之正字當作岐、作枝。凡作枳、作軹、作稜，并同音假借字也。」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は石小力 2018 に従い、『孔叢子』刑論「若老而刑之，謂之悖；弱而刑之，謂之克；不赦過，謂之逆；率過以小罪，謂之枳。故宥過，赦小罪，老弱不受刑，先王之道也。」の「枳」は逆らう意であり、簡文は『管子』形勢解「能寬裕純厚而不苛枝，則民人附」のように凶暴の意とする。

ee2018 第 59 樓の汗天山は王寧に従い「歧」に讀む。

筆者注：ここは文脈上石小力 2018 の讀みがよく、ここは『詩』大雅瞻卬「鞠人伎忒、譖始竟背。」毛傳「伎，害。」にあるように「そこなう」意味であろう。

「元政𡗗而不達𡗗型𡗗而枳」について。整理者は「其政苛而不達，其刑陷而枝，」に讀み、前の「刑易」と對比して刑罰の繁雜なことをいうとし、『孔叢子』刑論「仲弓問古之刑教與今之刑教。孔子曰：『古之刑省，今之刑繁。其爲教，古有禮，然後有刑，是以刑省；今無禮以教，而齊之以刑，刑是以繁。……』」を引用する。

【27】「𡗗」について。整理者は「愁」に讀み、『廣雅』釋詁「愚也。」を引用する。

陳民鎮 2018 は、「𡗗民」は簡7「邦家將毀」を表し、簡4「其位授能」の「能」に對應し、平凡で才能のない人の意とする。そして「𡗗」にも讀めることをいい、『荀子』非十二子「世俗之溝猶𡗗儒，嚙嚙然不知其所非也。」楊倞注「𡗗，闇也。」を引用し、「𡗗民」で愚か者の意とする。清華簡『皇門』簡10-11にもこの字があり、整理者は「媚」に讀んで嫉妬の意とし、復旦讀書會 2011 は「𡗗妻」を『逸周書』皇門「婚（昏）妻」と同じ意味の「𡗗妻」に讀んでいることをいい、本篇では清華簡『皇門』の用例から「媚」に讀むのが文意に適うと述べる。

石小力 2018 は「愁」が傳世文獻にほとんど見えないことから整理者を否定し、「侮」に讀んで侮る意とし、上博楚簡『容成氏』簡53「紂爲無道，𡗗（昏）者（屠？）百姓，至（桎？）約諸侯，絕種𡗗（侮）𡗗（姓），土玉水酒，天將誅焉。」を引用し、「侮姓」を簡文では「侮民」と表記するという。

蕭旭 2018 は「其位用愁民，眾脆焉誥」が前の「其位授能而不外」と對になり、整理者の「𡗗」説に従って無能者の意とし、『廣雅』「恟愁，愚也。」を引用する。そしてこの文は、愚か者を任用すれば、大勢の知恵がなく無能な者がやって来る、の意味とする。

ee2018 第25樓の羅小虎は「擾」に讀み、『說文解字』「擾，煩也。」『國語』晉語二「國亂民擾，大夫無常，不可失也。」『漢書』趙充國辛慶忌傳「轉輸竝起，百姓煩擾。」等を引用し、「擾民」で人民を煩わす意とする。そして直前の「用」を「以」の意とする。

ee2018 第37樓の林少平は「𡗗」に讀んで「劣」に訓じ、「劣民」を「弱民」の意とする。

王寧 2018 は整理者に従う。

子居 2019a は「𡗗」の異體字として「𡗗」に讀んで「貪」に訓じ、『國語』晉語一「嗛嗛之食，不足𡗗也。」韋昭注「𡗗，貪也。」『逸周書』芮良夫解「今爾執政小子，惟以貪諛爲事，不勲德以備難。下民胥怨，財單竭，手足靡措、

『鬼谷子』抵巇「公侯無道德，則小人讒賊；賢人不用，聖人竄匿，貪利詐偽者作。」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は陳民鎮 2018 に従い、前の「民志遂而直」に對應するという。

ee2018 第 59 樓の汗天山は陳民鎮 2018 に従う。

筆者注：ここは無能な者を高い地位につけることをいうのであろう。復旦讀書會 2019 らがいうように陳民鎮 2018 の議論がおおむね適切であるが、「媚」はねたむ意なので、『荀子』非十二子の用例のように暗い意の「瞽」に讀む方が適當。

【28】「瞽」について。整理者は「脆」に讀み、郭店楚簡『老子』甲本「其瞽也」の「瞽」を今本は「脆」に作ることをいい、『廣雅』釋詁「脆，弱也。」『國語』晉語六「臣脆弱，不能忍俟也。」を引用する。

ee2018 第 26 樓の羅小虎は「悴」（從母物部）に讀み、清母月部のこの字と共に齒音、旁轉で通假するとし、『孟子』公孫丑上「民之憔悴於虐政，未有甚於此時者也。」『國語』吳語「使吾甲兵鈍弊，民人離落，而日以憔悴，然後安受吾燼。」を引用する。

王寧 2018 は「慙」の異體字とし、『說文解字』「精慙也」、段注「未聞。」王筠『說文解字句讀』「集韻：『慙，呼骨切，慙也。』無精字。」を引用する。その「精」を「情」の誤りとして「情慙」を考えが愚鈍である意とし、『集韻』沒韻「慙也。」（筆者注：「慙也」）『玉篇』心部「慙，癡也。」を引用し、ここは、君主が位にあって愚鈍であり、民衆も多くはそれと共に愚昧である意味とする。

子居 2019a は「𦣻」に讀んで「細」に訓じ、「細民」「細人」の省略とする。またこの前の「衆」を「諸」に訓ずる。

筆者注：この「衆𦣻女慙」の解釋は難解である。『詩』大雅烝民「人亦有言：『柔則茹之，剛則吐之。』」釋文「𦣻，……本又作脆。」等とあるように、「𦣻」「脆」は通假するから、ひとまず整理者に従って讀んでおく。

ee2018 第 47 樓の王寧・王寧 2018 は句讀を「其位用𡇗，民衆𡇗焉。𡇗其民志，憂其君子，薄於教而行詐，」とする。

復旦讀書會 2019 は王寧の句讀について、「𡇗其民志，憂其君子」は動詞－目的語の構造で、「薄於教而行詐」に主語がなく、この文章では省略された主語が全て代名詞「其」に一致する必要があるがそうではなく、前の文の主語でもある「君子」を主語とする可能性が高いといい、整理者に従う。

筆者注：ここは整理者の句讀のままで意味が通じる。

【29】「𡇗」について。整理者は「憂」に讀む。

ee2018 第 10 樓の心包は、「澆」（「薄」の意）又は「𡇗」（道理を曲げる意）に讀めるが、前者がよいとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、『鬼谷子』權「憂者，閉塞而不泄也。」『韓詩外傳』卷五「憂鬱而不得出。」を引用する。

「𡇗」について。整理者は「𡇗」に隸定する。そして「且」に従う字と「𡇗」に従う字は通假するとして「詐」に讀み、『詩』邶風谷風「既阻我德」について、『太平御覽』卷八三五が韓詩を引いて「阻」を「詐」に作ることをいう。

ee2018 第 1 樓の ee は、字形からは「言」「目」「又」「心」に従って「且」に従わないとし、整理者を否定して、「相」（心紐陽部）聲に従う「𡇗」（生紐陽部）に讀んで誤りの意とする。

ee2018 第 6 樓の紫竹道人は、もし横畫が一本足りない「且」旁が省略でなければ、「𡇗」は「𡇗」「𡇗」（鄔可晶 2018 參照。筆者注：但し「𡇗」は「𡇗」）であり、「誼」「𡇗」に讀んで「欺詐」に訓じ、「行𡇗」を「行詐」とし、整理者の理解に一致すると述べる。

ee2018 第 32 樓の羅小虎は整理者の讀みに従い、包山楚簡・新蔡楚簡等で「且」を「目」に作る文字の例により、この字の「目」も「且」の省略とする。

子居 2019a は整理者に従い、『管子』形勢解「莅民如父母，則民親愛之。道之純厚，遇之有實，雖不言曰吾親民，而民親矣。莅民如仇讎，則民疏之。道之不厚，遇之無實，詐僞竝起，雖言曰吾親民，民不親也。」を引用する。

ee2018 第 37 樓の海天遊蹤は整理者に従い、「且」の下部横畫が省略されている例として上博楚簡『弟子問』簡 15「親」・清華簡『祭公之顧命』簡 16「慮」・同『季康子問於孔子』簡 14「覩（且）」を挙げる。

王寧 2018 は「謹」の異體字とし、「詛」に通用するといい、整理者の讀みに従う。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

筆者注：圖版により、「𠄎」に隸定する。但しその傍の「目」については、羅小虎のいうように「且」の省略形と考えるのが適當。

【30】「𠄎」について。整理者は楚文字の「窺」とし、上博楚簡『容成氏』「自内（入）焉，余穴𠄎（窺）焉。」を引用する。

ee2018 第 7 樓の哇那は「規」に讀み、「爭規於謀夫」で謀夫と争って計畫する意とする。

ee2018 第 12 樓の苦行僧は揆度（推理）の意の「揆」に讀み、上博楚簡『容成氏』簡 10「穴（閱）窺」の「窺」（筆者注：原簡では「圭」「見」の位置が本篇と左右逆になっているだけである）も「揆」に讀むことをいう。

ee2018 第 21 樓の羅小虎は整理者に従い、「弟子轉遠人而爭窺於謀夫」は前の「弟子不專遠人，不納謀夫」に逆の意味で對應し、それ以外の解釋をすれば問題が起きると述べる。また「圭」を聲符として『禮記』祭義「故君子頃歩而弗敢忘孝也。」鄭注「頃當爲跬，聲之誤也。』『經典釋文』「頃讀爲跬。」により「跬」から「頃」、そして「頃」を聲符とする「傾」に讀めるとして傾く意とし、『史記』平原君虞卿列傳「是時齊有孟嘗，魏有信陵，楚有春申，故爭相傾以待士。』『史記』孟嘗君列傳「以故傾天下之士。」を引用する。

ee2018 第 24 樓の王寧は苦行僧に従い、「謀夫」を陰謀家のこととする。

ee2018 第 29 樓の姚道林は哇那の讀みに従いつつ、圖る意とし、前の「不納」に對應するという。

ee2018 第 21 樓の林少平は哇那に従い、『戰國策』齊策「齊無天下之規」鮑彪注「規猶謀也。……無謀齊者。」を引用し、「爭規」を「爭謀」のこととする。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ「見」に訓じ、『呂氏春秋』審分覽君守「身以盛心，心以盛智，智乎深藏，而實莫得窺乎。」、高誘注「窺，見。」『同』審應覽精論「目視於無形，耳聽於無聲，商聞雖衆，弗能窺矣。」高誘注「窺猶見。」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

ee2018 第 58 樓の汗天山は「規」に讀む説に従い、その訓について「規劃」の意で引申して畫策・追求といった意味になるから、「規」に讀む説同士については實質的な差がないと述べる。

筆者注：ここの句讀も簡 6 同様、「…謀。夫如是，……」とすべきである。「窺」「規」いずれに讀んでも、この文の解釋においてさほど大きな差はない。ひとまず整理者に従って讀んでおく。『管子』霸言「夫爭彊之國，必先爭謀，爭刑，爭權。令人主一喜一怒者，謀也。」とあり、覇權を爭う國はまず「謀」等を爭うことをいう。無論、簡文で「謀」を爭うのはマイナスの意味合いである。

【31】「𦵏」について。整理者は匣母月部として見母月部の「芥」に讀み、『詩』豳風七月「以介眉壽」、無𦵏鼎「用割眉壽」（集成 2814）、『左傳』哀公元年「以民爲土芥，是其禍也」、杜注「芥，草也。」を引用する。

子居 2019a は『孟子』離婁下「君之視臣如土芥，則臣視君如寇讎。」の「土芥」を『朱子語類』等後代の文獻が引用して「草芥」に作ることを指摘し、『孟子』には「草芥」に作る版本があったとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

【32】「下瞻上女寇讎矣」について。整理者は「下瞻其上如寇讎矣。」に讀

み、『孟子』離婁下「君之視臣如土芥，則臣視君如寇讎。」を引用する。

子居 2019a は整理者の讀みに従い、「寇讎」は『左傳』『晏子春秋』『孟子』離婁下に見え、本篇とこれらの成立年代が近いことを示すとする。

復旦讀書會 2019 は「寇讎」を仇敵の意とし、『左傳』僖公三十三年「武夫力而拘諸原，婦人暫而免諸國，墮軍實而長寇讎，亡無日矣。」等を引用する。

「下瞻_𠂔上女寇讎_𠂔矣上下_𠂔絶德女是_𠂔類不長_𠂔乎」について。整理者は「下瞻其上如寇讎矣，上下_𠂔絶德。如是，其類不長乎。」に讀む。

王寧 2018 は句讀を「下瞻其上如寇讎矣！上下絶德如是，其類不長乎！」とする。

筆者注：ここまでに「如是」で前文を承けて後文に續ける形が幾つかあり、また簡7「如是者恆興」にも對應すると考えるのが適當であるから、整理者の句讀でよい。

【33】「上下_𠂔」について。整理者は重文符號が衍字である可能性をいう。

子居 2019a は「上下」を意味する合文符號とし、「上下絶德」の説は『荀子』王霸「絜國以呼功利，不務張其義，齊其信，唯利之求，内則不憚詐其民而求小利焉，外則不憚詐其與而求大利焉，内不修正其所以有，然常欲人之有，如是，則臣下百姓莫不以詐心待其上矣。上詐其下，下詐其上，則是上下析也，如是，則敵國輕之，與國疑之，權謀日行而國不免危削，綦之而亡，齊閔、辟公是也。」に類似するという。

筆者注：ここは以下に續く語に鑑みれば「上下」と讀む以外にない。整理者に従い、重文符號を衍字としておく。

「𠂔」について。整理者は右旁「𠂔」を「絶」の古文とし、『古文四聲韻』（中華書局、北京、1983年12月）14頁が引く古『老子』の「絶」字がそれとほぼ同じであり、また清華簡『祝辭』の「𠂔」の旁も同様であるとする。そし

て「絶」に読んで背離の意とする。

王寧 2018 は後の「讖」において、『集韻』上聲五・二十四緩では音が観緩切で「斷」と同じであり、この字は元々音が「絶」で、同義換讀のために「斷」と音が同じになったとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、卓絶した徳の意である「絶徳」の用例が『法言』淵騫「君子絶徳，小人絶力。」等遅いことをいい、ここは「絶」を離れる、「徳」を気持ちの意として『書』泰誓中「受有億兆夷人，離心離徳。予有亂臣十人，同心同徳。」を引用する。

筆者注：ここは文脈からいって整理者や王寧 2018 のいうように、徳を絶つ・斷つといった意味に讀むのが適當。先秦傳世文獻の用例には見えないが、整理者に従って「絶」に讀んでおく。

【34】「類」について。整理者は「類」に讀んで族類の意とし、『左傳』僖公十年「神不歆非類，民不祀非族」、孔疏「類、族一也。」を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

「女是，元類不長𠂔。」について。整理者は「如是，其類不長乎。」に讀む。

ee2018 第3樓の哇那は「其類」がその前の文を指すといい、句讀を「如是其類，不長乎。」とする。

子居 2019a は「如是」が『荀子』に見え、『淮南子』詮言訓「陰陽之始，皆調適相似，日長其類，以侵相遠」の「日長其類」が簡文と逆の意味で用いられていると述べる。

復旦讀書會 2019 は整理者の句讀に従い、「如是」をこのようにの意とする。

筆者注：ここは整理者の句讀で文脈上問題なく、敢えて他のそれを求める必要はない。

【35】「𠂔」について。整理者は「減」の誤寫とする。

華東師大 2018 は如字に讀んで減損の意とする。

子居 2019a は整理者に従う。

筆者注：これは如字に讀むと、上旁を「或」等にして「ふつ」に讀む「𣎵」等の字と同様であり、『集韻』入聲勿韻にいう「火不時出而滅」である。ここは後の「璋（彰）」の反意語として對になるはずであり、整理者に従って解しておく。

「璋」について。整理者は「彰」に讀んで顯著の意とし、『呂氏春秋』貴直論貴直「將以彰其所好耶」、高誘注「彰，明也。」を引用する。

子居 2019a は整理者に従い、「滅」「彰」を對比させる例は少ないとして、『管子』君臣上「此明公道而滅姦偽之術也。」「同」侈靡「章明之，毋滅。」を引用し、本篇の作者は『管子』君臣篇により近いと述べる。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

「可厚可專可𣎵可璋而邦家得長」について。整理者は「何厚何薄，何滅何彰而邦家得長。」に讀む。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、賓語を前置した文で、尊重するのは何か、薄弱にするのは何か、除去するのは何か、顯彰するのは何か、國家はそれで長久たらしめることができるか、の意味とする。

筆者注：ここも解釋が難しい。やはり「厚」「薄」と「滅」「彰」は對になっていると考えるべきで、「何厚何薄」は「何が厚く何が薄いか」、「何滅何彰」は「何が滅して何が現れるのか」の意味にとっておく。

【36】「新」について。ee2018 第31樓の羅小虎は新しい官吏とする。

華東師大 2018 は新しい衣服とする。

「折」について。整理者は「制」に讀み、『國語』晉語一「以制百物」、韋昭注「制，裁也。」を引用する。

ee2018 第 1 樓の ee は如字に読み、この前後は、新しいものは簡単に折れ、古いものは簡単に接合する、の意味とする。

蕭旭 2018 は「逝」に読み、また「跖」等にも作り、離れる意とする。この前後は、新しい人は離れ易く、古い人は親しみ易い、の意味とし、『晏子春秋』内篇雜上「衣莫若新，人莫若故。」『太平御覽』卷六八九・九〇七引古豔歌「衣不如新，人不如故。」も「故人易親附」についていうとする。

ee2018 第 31 樓の羅小虎は「愆」に読んで尊敬の意とし、『説文解字』「愆，敬也。」を引用する。

ee2018 第 35 樓の王寧は「厚」の意ではないかという。

華東師大 2018 は「製」に読んで縫製の意とする。また別案として、閩南語に曲げる・折り畳むの意があり、如字に読んで「拗」の意とし、『尉繚子』制談「將已鼓而士卒相鬪，拗矢折矛抱戟，利後發」『玉篇』手部「拗，拗折也」『廣韻』「拗，手拉」を引用する。そして「新則折……」を、國家草創期の法令・禮儀は衣服のようなもので、曲げたり折り畳んだりしてよく注意しなければならないが、舊くなれば綻びを繕わねばならず、國家が新たに定めた法令・禮儀はその時の風俗・國情を斟酌して完成する、それがその時の要請に合致するが、時は長久で規定は必要であり、要請に合致しなければ修正補足することになる、の意味とする。

ee2018 第 42 樓の boris は ee に従う。

王寧 2018 は如字に読んで折り畳むの意とする。

ee2018 第 48 樓の林少平は、孔子の發言は織物の比喻ではないかといい、ee の読みに従って糸か帶留めの意でここは禪衣を指し、「新しい絹糸は帶になるが、舊い絹糸は禪衣になる」の意味とする。

子居 2019a は整理者に従う。

蔣陳唯 2019 は ee に従う。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

筆者注：この文は一種の諺の類であろうが解し難い。新しいものは制御・調節され、古いものは依據される、という意味か。この字の読みはひとまず整理者に従っておく。

【37】「耆」について。整理者は「故」に読む。

ee2018 第31樓の羅小虎は古い官吏とする。

華東師大2018は舊い衣服とする。

復旦讀書會2019は整理者に従う。

筆者注：清華簡『四告』簡14「宜尔（爾）耆（祐）福」では「祐」に読んでいるが、ここは整理者の読みで文脈上問題ない。

「轉」について。整理者は「傳」に読んで「依」に訓じ、『漢書』匡衡傳「傳經以對」、顏師古注「傳，讀曰附。附，依也。」を引用する。

ee2018 第31樓の羅小虎は「附」に読み、親しんで付き従う意とし、『淮南子』兵略訓「政勝其民，下附其上，則兵強矣。』『史記』司馬穰苴列傳「穰苴雖田氏庶孽，然其人文能附衆，武能威敵，願君試之。」を引用する。

ee2018 第34樓の哇那是「補」に読み、『韓非子』初見秦「今秦地折長補短，方數千里」を引用する。

ee2018 第35樓の王寧は「搏」の異體字として「薄」に読み、舊い衣服が摩耗することをいうとする。

華東師大2018は哇那に従い、「巾」に従う專聲とし、ここは孔子が恐らく魯哀公の質問に答えた際に故事成語か俚諺を引用したもので、衣類の比喻を用いて政治の道理を述べたものとし、「新しい衣服は縫製しなければならず、舊い衣服はただ補綴すればよいだけだ」の意味であり、國家の草創期は法令を作らねばならないが、後繼君主は不足を調べて補えばよいだけであること、を表すとする。

ee2018 第42樓のborisは「固」に読んで「堅固」に訓じ、金文の「𠄎」

「鉗」は「簠」と同じで、郭店楚簡『窮達以時』簡 1-2「舜耕於歷山，陶拍於河匠。」の「匠」を李家浩・袁國華は「浦」に読み、その字は清華簡『季康子問於孔子』簡 22 にも見え、「固」に用いられていると述べる。そして「新則折，故則固」は、新しく生じたものは簡単に折れ、古いものはより堅固である、の意味とする。

王寧 2018 は「縛」の異體字として「薄」に訓じ、『説文解字』段注「凡物之單薄不厚者亦無間可入，故引伸爲厚薄之薄。曹憲云：『必當作縛』，非也。」を引用する。そして「薄」「縛」は通假し、ここは「縛」に読むのではないかといい、『左傳』昭公二十六年「以幣錦二兩，縛一如瑱」、杜注「縛，卷也。急卷使如充耳，易懷藏。」を引用し、この前後を、新しい時に曲がっているものは、舊くなると巻きつく、の意味とする。

子居 2019a は整理者の讀みに従い、『管子』小問「桓公觀於厩，問厩吏曰：『厩何事最難。』厩吏未對。管仲對曰：『夷吾嘗爲圉人矣。傳馬棧最難。先傳曲木，曲木又求曲木，曲木已傳，直木毋所施矣。先傳直木，直木又求直木，直木已傳，曲木亦無所施矣。』」がこの孔子の返答に近いとする。また本篇全體の構造については華東師大 2018 に従い、魯哀公の質問に孔子が答えたものとする。

蔣陳唯 2019 は王寧 2018 の讀みに従いつつ、この前後を、新しいものは簡単に折れ、古いものは簡単に束縛される、の意味とし、『韓非子』備内「人臣之於其君，非有骨肉之親也，縛於勢而不得不事也。」を引用し、一種の中庸思想を表現しているとする。

復旦讀書會 2019 は整理者に従い、「新則制，故則附」を公が「邦家之政」について問うたのに答えたもので、新しいものはうまく裁定せねばならず、「前人」が制定した）古いものは（よいものであれば）踏襲せねばならない、の意味とする。そして「新」は「始」であり、慎んで始めたら「舉直錯諸枉」でなければならず、そうであれば「使枉者直」（いずれも『論語』顔淵）となり、前の「前人□□其則，無愆無彰，具處其昭」は「故則附」を補足したものだ

と述べる。

筆者注：ここも議論百出の観があるが、まずは整理者に従っておく。

【38】「**訂記** **𡗗**曲**𡗗**者**𡗗**曲**訂記** **𡗗**植曲者**𡗗**𡗗」について。整理者は「始起得曲，直者皆曲；始起得直，曲者皆直。」に読み、『國語』晉語六「始與善，善進善，不善蔑由至矣。始與不善，不善進不善，善亦蔑由至矣。」に類似の觀點が見え、上博楚簡『孔子見季桓子』「仁爰仁而進之，不仁人弗得進矣，治得不可人而歟。」は善が導き矯正することを主張するとし、『論語』爲政「哀公問曰：『何爲則民服。』孔子對曰：『舉直錯諸枉，則民服；舉枉錯諸直，則民不服。』」を引用する。

ee2018 第42樓のborisは類似の論法として、清華簡『趙簡子』簡2-3「子始造於善，則善人至，不善人退。子始造於不善，則不善人至，善人退。」を引用する。

ee2018 第44樓の林少平は「𡗗」「植」を整理者が全て「直」に読むことに疑問を呈する。

ee2018 第48樓の林少平は「曲植」を養蚕の工具、「𡗗」を齊魯語の「得」に読んで「獲得」に訓ずる。

子居2019aは「𡗗」を「徳」、「植」を「直」に読み、前引『管子』小問「桓公觀於厩……」に引きつけて解し、簡文の方が臣下の行動の餘地が少なく、より成立が遅いとする。

復旦讀書會2019は整理者に従い、『論語』顔淵「舉直錯諸枉，能使枉者直。」『史記』孔子世家「舉直錯諸枉，則枉者直。」を引用する。

陳偉2019は前引『管子』小問「桓公觀於厩，……」により、簡文は管仲の發言と關連性を有することをいう。

筆者注：ここは整理者の讀みに従う。子居2019a・陳偉2019が指摘するようにここは『管子』小問の説話と關係があり、山東系の文字の要素が見られることも含め、本篇が齊魯地域の思想的影響を受けている可能性を考慮すべきで

あろう。

【39】「𡩺」について。整理者は「昭」に読み、『詩』大雅抑「昊天孔昭」、鄭箋「昭，明也。」『大戴禮記』四代「是以祭祀，昭有神明。」を引用する。

ee2018 第 11 樓の心包は「郷」字とし、この両側の人形のうち左側の方向が違っているだけであり、その特徴は齊の璽印や齊魯系の文字に多く見えるといい、「璋」「郷」「常」が押韻することを指摘する。

ee2018 第 43 樓の心包は自説を補足し、「減璋（無減無彰）」の意味内容はこと無関係で、「具處其郷」は、「減彰」が全てその時の状況においてあるべきところにある、のこととする。

王寧 2018 は心包の讀みに従いつつ「嚮」の假借字とし、北大漢簡五『捫輿』「昔者既建歲日，辰星終有其郷（嚮）。辰星乃與歲日相逆，以正陰與陽。既順或逆，以爲常。」を引用し、「郷」「陽」「常」はいずれも陽部で押韻すると述べる。

ee2018 第 49 樓の陳民鎮は「享」に読んで「當」に訓じ、『漢書』谷永傳「絶卻不享之義」、顔師古注「享，當也。」を引用する。そして「具處其享」は政治がふさわしさを尊び、過度に増減してはならないことをいうとする。

ee2018 第 50 樓の心包は、傳世文獻中の「郷」は一定の指向・區域・位置等を指し、「刀」は「夕」の形にはなっても「人」形には絶対にならず、古文字「召」の異體字は「人酉」からなり、「嚮」「昭」とは無関係だと述べる。

子居 2019a は心包に従いつつ、「所」に訓じ、『詩』小雅采芣「薄言采芣，于彼新田，于此中郷。」毛傳「郷，所也。」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は心包・王寧 2018 に従い、簡文では「刀」「人」形の混用は多いこと等をいう。

筆者注：ここは本簡の文字が山東系のそのの影響を受けていることを示唆するところである。心包に従い、場所の意の「郷」に読むが、ここの文は、そのいるべきところにいるということか。

「毒人□□□元則無𤑔〈滅〉無璋具尻元𤑔𤑔人之事豈時爲常」について。整理者は「前人□□□其則，無𤑔〈滅〉無彰，具處其昭，改人之事，當時爲常。」に読み、簡文はいにしえに従うことを主張するとし、『荀子』哀公「孔子對曰：『生今之世，志古之道，居今之俗，服古之服。』」を引用する。

王寧 2018 は句讀を「前人□□□，其則無滅無彰，具處其鄉。改人之事，當時爲常。」とする。

子居 2019a は整理者の解釋を否定し、時に應じて變化すべきことをいうとする。

復旦讀書會 2019 は、ここは前の「故則附」を補足し、舊政に従うべき條件は「具處其昭」であり、依據するところはその明らかにするものである、といっており、無條件・全面的にいにしえに従うことではないと述べる。

筆者注：ここは「毒（前）人□□，□□元（其）則，無𤑔〈滅〉無璋（彰），具尻（處）元（其）𤑔（鄉），𤑔（改）人之事，豈（當）時爲常。」と、四字句として解するのがよさそうである。整理者が3字とする缺字については、原簡によればおよそ3.5字分であり、4字とみることも可能である。

【40】「𤑔」について。整理者は「改」に読み、『説文解字』「更也。」を引用する。

ee2018 第31樓の羅小虎は整理者の讀みに従いつつ、變更・交替の意とし、ここは官職を交替することをいうと述べ、『逸周書』史記解「昔有果氏好以新易故，故者疾怨，新故不和，内爭朋黨，陰事外權，有果氏以亡。」を引用する。

ee2018 第48樓の林少平は「緡」に讀んで「緡人」を縫製の作業員とし、睡虎地秦簡『秦律十八種』工人程簡110「隸妾及女子用箴爲緡繡它物」（睡虎地秦簡：46）を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者の讀みに従い、ここは、國政上改めるところがあれば、時に應ずるのを常の理とする、の意味とし、『禮記』王制「無曠土，無游民，食節事時，民咸安其居」、『同』禮器「故作大事必順天時」を引用する。

筆者注：先秦傳世文獻にはここでいうような「改人」の語が見えない。ただ他に適切な読みがなかなかないので、ひとまず整理者に従い、羅小虎のように人事異動の意に解しておく。

「時」について。整理者は如字に讀む。

ee2018 第 27 樓の羅小虎は指示代名詞「是」に讀み、前の孔子の言葉を指し、「當是爲常」で、これを常法とせねばならない、の意味とする。

ee2018 第 43 樓の心包は整理者に従い、その時の状況による、の意味とする。

子居 2019a は整理者の讀みに従いつつ、ここは時と共に變化すべきことを主張する法家思想に近いとし、『商君書』更法「公孫鞅曰：『前世不同教，何古之法。帝王不相復，何禮之循。伏羲神農教而不誅，黃帝堯舜誅而不怒。及至文武，各當時而立法，因事而制禮。禮法以時而定，制令各順其宜，兵甲器備各便其用。臣故曰：『治世不一道，便國不必法古。』湯武之王也，不循古而興，殷夏之滅也，不易禮而亡。然則反古者未必可非，循禮者未足多是也。……』」等を引用する。

復旦讀書會 2019 は整理者に従う。

筆者注：ここは文脈上整理者の讀みでよい。子居 2019a は讀み込み過ぎで、心包の解釋がよい。人事異動についてはその時々状況に合わせるべきことをいうのであろう。

〔解題〕

整理者の解説によれば、本篇はもと竹簡 13 枚からなるが、簡 1・2 は缺落しており全部で 11 枚、簡 3 上・下段と簡 5・13 上段に殘缺がある。簡長約 45 cm、幅約 0.6 cm、3 箇所編繩があり、簡毎の字数は 28-34 字で一定せず、文字は鮮明である。竹簡背面に配列順を示す數字が「三」から「十三」まで書かれており、劃痕があるがその通りに竹簡が配列されていたかは不明であ

る。篇題はなく、『邦家之政』は整理者がその内容から名付けたものである。

筆寫者について ee2018 第 15 樓の松鼠は、本篇と『邦家處位』『治邦之道』は三人の異なる書き手によるもので、運筆は盟書に近いが楚文字の書法であり、本篇は簡 3「至」を除き全て楚文字が用いられ、それは清華簡『命訓』簡 14「至」にも見られるから、本篇の書き手は楚國の人ではないかもしれないという。

整理者はまた、本編が孔子と某公との對話に假託し、作者の治國爲政理念を述べたもので、第 1 段は國家を長久ならしめる方法について、第 2 段は否定的な側面から國家を衰亡させる原因について述べ、第 3 段は從古・愼始扶正・善治人事について語るとし、大まかにいって儒家の理念を反映しており、節儉・薄葬・均分等において墨家思想と合しているという。李均明 2018 は節儉・平政・任賢・民本の觀點から本篇を分析し、儒家の政治理念が貫徹すると共に、節儉・薄葬・均分については墨子思想と關連性を有することを論ずる。子居 2019a は本篇に墨家思想に近い尚儉觀が見られ、孔子に假託した子産後學の作品で、清華簡第八冊所收の幾つかの他短篇も同様とし、本篇の作者を戰國後期・末期の封君の傳とする。李均明 2019 は節儉（宮室・衣服・儀禮・葬儀）・選賢（宗法制の束縛下にはある）・民本（國君と民衆の調和・平等分配）の觀點から、本篇が儒家と墨家の融合による産物とする。朱君傑 2020a は李均明 2018 の理解を繼承しつつ、本篇が墨家に近く思孟學派から遠い「俗儒」（『荀子』儒效）に接近しており、「子張之儒」（『韓非子』顯學）である可能性が高いことを述べる。

本篇は李均明 2018 などが指摘するように儒家的要素と墨家的要素が混淆し折衷的な内容を有しており、松鼠によれば書法は盟書、つまり晉（おおよそ山西とその周邊）系に近いが楚文字のそれであるという。他方、本篇末尾には『管子』小問との關係が窺えるように、山東系思想や齊魯系文字の影響を推測させる要素もある。これが傳世文獻に記されたとの學派に屬するかの議論は推

測の域を出ないが、少なくとも先秦期における思想の地域間の動きについて、そのダイナミズムを示す資料の一つであるとはいえる。

清華簡《邦家之政》譯注

小寺 敦

本文是對戰國時代出土文獻——清華大學藏戰國竹簡（清華簡）《邦家之政》所作的譯注，同時對其史料特徵展開初步的考察。清華簡是 2008 年秋天清華大學入藏的一批戰國竹簡，一共約有 2500 枚。2017 年 4 月出版的整理報告《清華大學藏戰國竹簡（捌）》收載《邦家之政》篇。《邦家之政》簡長約 45 cm，幅約 0.6 cm，簡背有序號和劃痕。竹簡共 11 枚，缺序號一、二。整理者根據原簡內容擬定篇題。《邦家之政》假託孔子與某一位“公”對話的形式論述治國為政的理念。本篇反映儒家的思想和墨家的節儉、薄葬、均分觀念。